京都国立近代美術館
活動報告

平成31年度・令和元年度

MoMAK Report 2019

京都国立近代美術館　活動報告

平成31年度・令和元年度（2019）

目次

［展覧会／コレクション展］

4　展覧会一覧表
12　平成31／令和元年度展覧会一覧表
13　平成31／令和元年度コレクション展記録
14　平成31／令和元年度エデュケーショナル・スタディズ
15　平成31／令和元年度展覧会記録

30　［作品の収集、保存、貸出］

平成31／令和元年度作品の収集、保存、貸出

45　［展覧会協力事業］

平成31／令和元年度展覧会協力事業

46　［学習支援普及事業］

46　平成31／令和元年度学習支援・普及事業
55　平成31／令和元年度広報

56　［調査・研究］

平成31／令和元年度調査・研究

59　［名簿］

評議員・職員

Contents

[Exhibitions / Collection Gallery]

4　Table of Exhibitions
12　Table of Exhibitions 2019
13　Collection Gallery 2019
14　Educational Studies 2019
15　Exhibitions 2019

30　[New Acquisitions, Conservation, Loan from the MoMAK Collection]

New Acquisitions, Conservation, Loans from the MoMAK Collction 2019

45　[Exhibition-related Cooperation]

Exhibition-related Cooperation 2019

46　[Public and Learning Programs]

46　Public and Learning Programs 2019
55　Publicity 2019

56　[Research Activity]

Research Activity 2019

59　[Nominal List]

The Board of Trustees and Museum Staff

展覧会一覧表 Table of Exhibitions

国立近代美術館京都分館

昭和38年度［1963］

1　現代日本陶芸の展望ならびに現代絵画の動向
2　ビュッフェ展―その芸術の全貌
3　工芸における伝統と現代
　現代絵画の動向―西洋と日本
4　村上華岳の芸術
5　工芸における手と機械
6　シャガール展
7　北大路魯山人の芸術
8　近代日本の洋画と工芸―明治・大正期
9　近代日本の洋画と工芸―昭和期

昭和39年度［1964］

10　現代美術の動向―絵画と彫塑
11　児島善三郎遺作展
12　現代イギリス彫刻展
13　ピカソ展―その芸術の70年
14　浅井忠の芸術
15　現代日本の工芸
16　現代国際陶芸展
17　禅の美術
18　日本・カラー1964 ―現代写真代表作展
　特別陳列：東京オリンピック報道写真
19　近代日本画の歩み

昭和40年度［1965］

20　小出楢重展
21　世界の染織〈1〉―エジプトとペルシア
22　現代美術の動向
23　近代絵画の流れ
24　前衛絵画の先駆者たち
25　入江波光展
26　フォーブ展
27　具象絵画の新たなる展開
28　戦後の油絵と版画
29　現代ヨーロッパのリビングアート

昭和41年度［1966］

30　稲垣稔次郎展
31　現代美術の動向
32　岡田謙三展
　併陳：近代日本の工芸
33　日本の近代絵画
34　冨田渓仙展
35　ミロ展
36　現代アメリカ絵画展
37　第5回東京国際版画ビエンナーレ展
38　現代アメリカのリビングアート

昭和42年度［1967］

39　近代日本の絵画（日本画）と工芸
40　近代日本の絵画（洋画）と工芸

京都国立近代美術館

昭和42年度［1967］

41　近代日本画の名作
42　現代美術の動向
43　異色の近代画家たち
44　近代日本の工芸
45　現代イタリア美術展
46　勅使河原蒼風の彫刻
47　デュフィ展
48　現代陶芸の新世代

昭和43年度［1968］

49　土田麦僊展
50　ボナール展
51　モジリアニ名作展
52　現代美術の動向
53　陶工河井寛次郎展
54　ロートレック展
55　第6回東京国際版画ビエンナーレ展
56　近代デザインの展望

昭和44年度［1969］

57　山口薫回顧展
58　日本画の新人たち
59　菅井汲展
60　現代美術の動向
61　ゴーギャン展
62　現代イギリス版画展
63　近代日本の工芸
64　東洋の染織

昭和45年度［1970］

65　石黒宗麿回顧展
66　富本憲吉遺作展
67　現代美術の動向
68　現代の陶芸―ヨーロッパと日本
69　バーバラ・ヘップワース展
70　英国風景画展
71　エドワルド・ムンク展
72　第7回東京国際版画ビエンナーレ展

昭和46年度［1971］

73　所蔵作品展
74　小合友之助・河合卯之助 二人展
75　近代日本の彫刻
76　ルネ・マグリット展
77　染織の新世代
78　現代の陶芸
　―アメリカ・カナダ・メキシコと日本
79　現代ドイツ美術展
80　カルティエ＝ブレッソン写真展
　併陳：所蔵作品による近代日本の工芸

昭和47年度［1972］

81　近代イタリア美術の巨匠たち
82　現代スウェーデン美術展
83　デューラーとドイツ・ルネッサンス展
84　現代美術の鳥瞰
85　ペーテル・ブリューゲル版画展
86　ヨーロッパの日本作家
87　ジェームズ・アンソール展
88　第8回東京国際版画ビエンナーレ展
89　シカゴ美術館浮世絵名品展

昭和48年度［1973］

90　所蔵品による欧米の陶芸
　併陳：新収作品の紹介
91　吉原治良展 明日を創った人
92　現代工芸の鳥瞰
93　グラフィック・イメージ ’73
94　アメリカの日本作家
95　近代日本美術史におけるパリと日本
96　キリシタン美術の再発見
　―西洋と日本の出会い
97　デ・キリコによるデ・キリコ展

昭和49年度［1974］

98　ダダの女流画家
　ハンナ・ヘッヒの芸術
99　アンドリュー・ワイエス展
100　グラフィック・イメージ ’74
　（ワード＋イメージ）
101　沖縄の工芸
102　現代メキシコ美術展
103　第9回東京国際版画ビエンナーレ展

昭和50年度［1975］

104　現代衣服の源流展
105　ポール・デルボー展
106　異色の水墨画家
　―野沢如洋・泥谷文景・小川千甕
107　香月泰男遺作展
108　フランス工芸の美
　―15世紀から18世紀のタピスリー
119　シュルレアリスム展
110　ポール・デービス展
111　ソ連寄贈福田平八郎作品展
　併陳：近代の日本画
　―所蔵作品による―

昭和51年度［1976］

112　ドイツ・リアリズム 1919－1933
　ドイツ民主共和国所蔵 絵画・彫刻・版画
113　ドイツの現代陶芸
114　アメリカのキルト
115　異色の水墨画家
　―水越松南・山口八九子・楠瓊州
116　今日の造形〈織〉―ヨーロッパと日本
117　キュービズム展
118　オランダ国立ヴァン・ゴッホ美術館所蔵 ヴァン・ゴッホ展
119　第10回東京国際版画ビエンナーレ展

昭和52年度［1977］

120　イタリア古版画展
　―15世紀から18世紀―
　併陳：近代日本の版画―所蔵作品より
121　金鈴社の画家たち
　―鏑木清方、吉川霊華、平福百穂、松岡映丘、結城素明
122　「第九の怒濤」を中心とするロシア美術館名作展
　併陳：ソ連政府寄贈福田平八郎作品展
123　近代の日本画―所蔵作品より―
124　現代美術の鳥瞰
　―明日を探る作家たち―
125　今日の造形〈織〉―アメリカと日本
126　フォンタネージ、ラグーザと明治前期の美術
127　ピカソ展
128　牛島憲之の芸術
　―50年の歩み その静温な風景詩―

昭和53年度［1978］

129　オスカー・ココシュカ展
130　没後50年記念 佐伯祐三展
131　世界の現代画家50人展
　―サザーランドからフォロンまで―
132　現代日本の工芸
133　ヨーロッパのポスター：
　その源流から現代まで―
134　世界の現代工芸
　―スカンディナヴィアの工芸―
135　新収作品を中心とする所蔵作品展
　―絵画・版画・彫刻―
136　安井曾太郎展 京都が生んだ洋画の巨匠

昭和54年度［1979］

137　ソ連邦所蔵のフランス近代絵画展
　―プーシキン、エルミタージュ両美術館から―
138　没後50年 岸田劉生展
139　異色の水墨画家
　―西晴雲・近藤浩一路・山下摩起
140　天野博物館所蔵品によるプレ・インカの染織
141　フランス絵画の巨匠たち
　―ボストン美術館秘蔵展―
　コローからブラックまで
142　速水御舟の芸術展 写実と幻想の天才画家

昭和55年度［1980］

143　浪漫衣裳展「洋装事始」をうながした西欧の波
144　銅版画の巨匠 長谷川潔展
145　現代ガラスの美
　―ヨーロッパと日本―
146　ポンピドゥ・センター／
　20世紀の美術
147　新収作品を中心とする所蔵作品展
　―絵画・版画・工芸―
148　イタリア・ルネッサンス美術展
149　八木一夫展

昭和56年度［1981］

150　須田国太郎展
151　マチス展
152　異色の水墨画家
　―日高昌克・井上石邨・篁牛人―
153　現代ガラスの美
　―オーストラリア・カナダ・アメリカと日本―
154　モーリス・ドニ展
155　所蔵作品展―近代の絵画
156　1960年代―現代美術の転換期

昭和57年度［1982］

157　ザオ・ウーキー展 油彩と墨絵
158　坂本繁二郎展
159　菊池契月展
160　アメリカに学んだ日本の画家たち
　国吉・清水・石垣・野田とアメリカン・シーン絵画
161　イギリスのニードルワーク
162　モネ展
163　新しい紙の美術―アメリカ

展覧会一覧表 Table of Exhibitions

昭和58年度［1983］

164　榊原紫峰展
165　河井寛次郎展
166　現代彫刻の異才 辻晉堂展
167　フランシス・ベーコン展
168　ニューヨーク近代美術館所蔵品による20世紀アメリカのポスター
169　現代美術における写真
—1970年代の美術を中心として

昭和59年度［1984］

170　京都国立近代美術館所蔵
—近代洋画名作展
171　バルチュス展
172　今日のジュエリー —世界の動向
173　現代美術への視点
—メタファーとシンボル展

昭和60年度［1985］

174　京都国立近代美術館所蔵
—近代洋画名作展
175　マチス、ミロ、ピカソら巨匠による近代の挿絵
併陳：フィラデルフィア美術館所蔵の版画24点による見えない敵—伝染病
176　現代デザインの展望
—ポストモダンの地平から—
177　写実の系譜 I —洋風表現の導入：江戸中期から明治初期まで

昭和61年度［1986］

178　新館開館記念特別展：
京都の日本画1910〜1930
大正のこころ・革新と創造
179　写実の系譜 II —大正期の細密描写
180　レンブラント・巨匠とその周辺
181　山口華楊・六代清水六兵衛遺作展

昭和62年度［1987］

182　宮殿からピラミッド計画へ
「大改造すすむルーブル美術館」展
183　館コレクションから選んだ写真：
近代の視覚・100年の展開
184　スウェーデンのテキスタイル・アート
185　カンディンスキー展
186　日本現代陶芸展 —4人の視点
187　ブリュッセル王立美術歴史博物館所蔵：ヨーロッパのレース
188　北欧クラフトの今日
—白い光・深い森のオブジェたち
189　若林奮展
190　現代イタリア陶芸の4巨匠展
191　ジェリコー展
192　ヤン・グロート展

昭和63年度［1988］

193　北大路魯山人展
194　ファイバーアートの新領域（フロンティア）
—アメリカ
195　梅原龍三郎遺作展
196　1986、87年度新収作品展
197　つながれた形の間に —飯田善國展
198　現代イギリスの工芸
199　写実の系譜 III —明治中期の洋画
200　萩須高徳遺作展
201　大きな井上有一展

平成元年度［1989］

202　華麗な革命
—ロココと新古典の衣裳
203　くるまからパスタまで
ジウジアーロ・デザインの世界
204　ル・サロン（1667—1881）の巨匠たち
フランス絵画の精華
205　現代デザインの水脈：
ウルム造形大学展
206　ヴァチカン美術館特別展
—古代ギリシャからルネッサンス、バロックまで
207　美の旅人 池田遙邨遺作展
208　能弁なオブジェ
—現代アメリカ工芸の展開
209　ファイバーアートの先駆者
—高木敏子遺作展
210　現代美術への視点
—色彩とモノクローム
211　生誕100年記念
ニューヨークの憂愁 国吉康雄展

平成2年度［1990］

212　モランディ展
213　スペイン現代陶芸展
214　高橋秀展 エロス・極限の赤と黒
215　プラハ国立美術館所蔵 ブリューゲルとネーデルランド風景画展
216　イメージ＆オブジェクト日本展
217　移行するイメージ：
1980年代の映像表現
218　写真の過去と現在
219　現代美術の神話 —ソナベント・コレクション オ・ダダからネオ・ジオまで
220　小磯良平遺作展
221　221 没後50年 鹿子木孟郎展

平成3年度［1991］

222　フランク・ロイド・ライト回顧展
223　生誕100年記念 長谷川潔展
224　ロバート・ヴェンチューリ＆スコット・ブラウン展
—建築とデコラティブ・アート
225　フィレンツェ・ルネサンス芸術と修復
226　野島康三とその周辺
日本近代写真と絵画の一断面
227　京都の未来像 建築展
228　大英博物館所蔵品によるアフリカの染織
229　金田和郎回顧展
230　荒川修作の実験展
—見る者がつくられる場
231　ゴッホと日本展

平成4年度［1992］

232　在米35年 孤高の軌跡 川端実展
233　イサム・ノグチ展
234　オーストラリア絵画の200年
—自然・人間・芸術—
235　アボリジニの美術 伝承と創造／オーストラリア大地の夢
236　フランク・O・ゲーリー展
—建築と家具—
237　現代美術への視点 形象のはざまに
238　フォーヴィスムと日本近代洋画
239　京都国立近代美術館創立30周年記念展 I：世界の工芸—所蔵作品による—

平成5年度［1993］

240　京都国立近代美術館創立30周年記念展 II：近代の美術
—所蔵作品による—
241　ゴーギャンとポン＝タヴァン派展
242　賈又福中国画展 東洋画の新星
243　谷角日沙春展
244　アンゼルム・キーファー展
メランコリア—知の翼
245　京の記憶／
スティーヴン・ファージング展
246　国画創作協会回顧展
247　柳原義達展
248　オーストラリアのジュエリー展
249　ルフィーノ・タマヨ展

平成6年度［1994］

250　モードのジャポニスム展
—キモノから生まれたゆとりの美—
251　イスラエルの工芸展
252　ヴィクトリア＆アルバート美術館展
英国のモダン・デザイン
—インテリアにみる伝統と革新—
253　ブルーノ・タウト展 近代建築のあけぼの／宇宙建築師の夢
254　日本の美—伝統と近代
255　写実の系譜 IV：『絵画』の成熟
—1930年代の日本画と洋画
256　京を描く—近代日本画に見る京都—
257　ピーター・ヴォーコス展

平成7年度［1995］

258　クロッシング・スピリッツ
カナダ現代美術展 1980－94
259　神秘の顕現 ギュスターヴ・モロー展
260　思索する色とかたち 作陶50年
タカエズ・トシコ展
261　情熱の画家・フォーヴの旗手
生誕100年記念 里見勝蔵展
262　ドナウの夢と追憶 ハンガリーの建築と応用美術 1896－1916
263　ピカソ 愛と苦悩
—「ゲルニカ」への道
264　現代美術への視点
—絵画、唯一なるもの

平成8年度［1996］

265　生誕100年記念 徳岡神泉展
266　リチャード・ロング展 山行水行
267　身体と表現 1920－1980 ポンピドゥー・センター所蔵作品から
268　増殖するイメージ
小牧源太郎遺作展
269　テキスタイルの冒険 —現代オランダの4人のアーティスト—
270　プロジェクト・フォー・サバイバル
1970年以降の現代美術再訪：
プロジェクティブ［意志的・投企的］な実践の再発見に向けて
271　結成100年記念 白馬会
—明治洋画の新風
272　大正日本画の異才
—いきづく情念 甲斐庄楠音展
273　北脇昇展
—理知と幻想のシュルレアリスト
274　モダンデザインの父
—ウィリアム・モリス

平成9年度［1997］

275　ドイツ現代写真展《遠・近》
—ベルント＆ヒラ・ベッヒャーとその弟子たち—
276　宿命の画家—土着と前衛のはざまに—萬鐵五郎展
277　写真の誕生から現代まで
—館所蔵世界の近代写真 I
278　漂流教室：イメージの図書館から
—18人の中学生が創る18の展覧会
279　土田麦僊展 日本画の偉才
—清雅なる理想美の世界
280　文人画の近代
—鉄斎とその師友たち展
281　村岡三郎展 熱の彫刻
—物質と生命の根源を求めて
282　生誕100年記念 豊田勝秋展
283　新収蔵品展 1993〜1997

平成10年度［1998］

284　没後90年記念 浅井忠展
285　森村泰昌［空装美術館］
—絵画になった私
286　テキスタイルの発言：イギリスの今日
287　生誕100年記念 岡鹿之助展
288　京都の工芸［1910－1940］
—伝統と変革のはざまに—
289　土谷武展
しなやかな造形、生成するかたち
290　ムンク版画展

平成11年度［1999］

291　身体の夢
ファッションOR見えないコルセット
292　生誕110年・没後20年記念展
小野竹喬
293　倉俣史朗の世界
294　京都新聞社創刊120年記念展
近代京都画壇と「西洋」
—日本画革新の旗手たち—
295　エディンバラの工芸
296　パリ オランジュリー美術館展
ジャン・ヴァルテル&ポール・ギョーム コレクション
297　日本の前衛 Art into Life
1900－1940
298　所蔵品でたどる 新しい造形表現
—1960年から今日まで—
299　顔 絵画を突き動かすもの

平成12年度［2000］

300　麻田鷹司展
301　粟辻博展 色彩と空間のテキスタイル
302　STILL＼MOVING：
境界上のイメージ—現代オランダの写真、フィルム、ヴィデオ—
303　没後70年記念 小出楢重展
304　万国博覧会と近代陶芸の黎明
305　トーマス・シュトゥルート：
マイ・ポートレート
306　ルネ・ラリック 1860－1945展

平成13年度［2001］

307　前田青邨展
308　ミニマルマキシマル
—ミニマル・アートとその展開
1990年代の現代美術
309　京都の工芸［1945－2000］
310　オーストリア・デザインの現在
—拡がるデザインの世界
311　生誕100年記念 小松均展
312　シエナ美術展
—絵画・彫刻・工芸の精華
313　銅版画の巨匠 長谷川潔展

平成14年度［2002］

314　日本画への招待—人・花・風景—
315　カンディンスキー展
抽象絵画への道 1896－1921
316　アメリカ現代陶芸の系譜 1950－1990
自由の国のオブジェとうつわ
317　スーラと新印象派
—光と点描の画家たち
318　クッションから都市計画まで
—ヘルマン・ムテジウスとドイツ工作連盟：ドイツ近代デザインの諸相
1900－1927
319　ウィーン美術史美術館名品展
—ルネッサンスからバロックへ—

平成15年度［2003］

320　知られざる西アフリカの美術
富と権力、王国2000年の歴史
321　東松照明の写真　1972－2002
322　韓国国立中央博物館所蔵
日本近代美術展
323　横尾 by ヨコオ：描くことの悦楽
—イメージの遍歴と再生
324　神坂雪佳展 —琳派の継承・近代デザインの先駆者
325　オーストラリア現代工芸3人展：
未知のかたちを求めて
326　ヨハネス・イッテン
—造形芸術への道
327　デカダンスから光明へ 異端画家・秦テルヲの軌跡—そして竹久夢二・野長瀬晩花・戸張孤雁…
328　京都国立近代美術館コレクションから 日本洋画の130年—見つめ、感じ、表現する画家たち
329　彫刻家：堀内正和の世界展

平成16年度［2004］

330 COLORS ファッションと色彩 VICTOR&ROLF&KCI
331 近代日本画壇の巨匠 横山大観展
332 ブラジル：ボディ・ノスタルジア
333 没後25年 八木一夫展 ―現代陶芸の異才
334 ジャパニーズモダン ―剣持勇とその世界展
335 痕跡―戦後美術における身体と思考
336 草間彌生展―永遠の現在
337 京都国立近代美術館所蔵 ―川勝コレクションの名品 河井寛次郎展

平成17年度［2005］

338 村上華岳展
339 through the surface：表現を通して ―現代テキスタイルの日英交流
340 20世紀陶芸界の鬼才 加守田章二展
341 近代日本画の名匠 小林古径展
342 堂本尚郎展
343 須田国太郎展
344 ドイツ写真の現在 ―かわりゆく「現実」と向かいあうために
345 ドイツ表現主義の彫刻家 エルンスト・バルラハ

平成18年度［2006］

346 人と自然：ある芸術家の理想と挑戦 フンデルトヴァッサー展
347 生誕120年 藤田嗣治展：パリを魅了した異邦人
348 生誕120年 富本憲吉展
349 プライスコレクション 若冲と江戸絵画展
350 都路華香展
351 揺らぐ近代 日本画と洋画のはざまに
352 アール・デコ・ジュエリーの世界 輝きの詩人シャルル・ジャコー、ブシュロン、ラリックらの宝飾デザイン

平成19年度［2007］

353 ノイズレス：鈴木昭男＋ロルフ・ユリウス
354 福田平八郎展
355 舞台芸術の世界 ディアギレフのロシアバレエと舞台デザイン
356 シビル・ハイネン：テキスタイル・アートの彼方へ
357 没後10年 麻田 浩展
358 文承根＋八木正 1973－83の仕事
359 カルロ・ザウリ展 イタリア現代陶芸の巨匠
360 新収作品展 ―寄贈されたM&Yコレクション 池田満寿夫の版画
361 玉村方久斗展
362 ドイツ・ポスター 1890－1933

平成20年度［2008］

363 生誕100年記念 秋野不矩展
364 ART RULES KYOTO 2008
365 ルノワール＋ルノワール展
366 「日本画」再考への序章 没後10年 下村良之介展
367 没後30年 W. ユージン・スミスの写真
368 生活と芸術 ―アーツ＆クラフツ展 ウィリアム・モリスから民芸まで
369 現代美術への視点 ―エモーショナル・ドローイング
370 上野伊三郎＋リチ コレクション展 ウィーンから京都へ、建築から工芸へ
371 椿昇 2004－2009：GOLD/WHITE/BLACK

平成21年度［2009］

372 ラグジュアリー：ファッションの欲望
373 京都新聞創刊130年記念 京都学「前衛都市・モダニズムの京都」1895－1930
374 東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵《袋一平コレクション》より 無声時代ソビエト映画ポスター展
375 生誕120年 野島康三 ある写真家が見た日本近代
376 ウィリアム・ケントリッジ ―歩きながら歴史を考える そしてドローイングは動き始めた……
377 ボルゲーゼ美術館展
378 マイ・フェイバリット ―とある美術の検索目録／所蔵作品から

平成22年度［2010］

379 稲垣仲静・稔次郎兄弟展
380 ローマ追想 ―19世紀写真と旅
381 Trouble in Paradise／生存のエシックス
382 「日本画」の前衛 1938－1949
383 上村松園展
384 麻生三郎展
385 パウル・クレー ―おわらないアトリエ

平成23年度［2011］

386 没後100年 青木繁展 ―よみがえる神話と芸術
387 視覚の実験室 モホイ＝ナジ／イン・モーション
388 「織」を極める ―人間国宝 北村武資
389 川西英コレクション収蔵記念展 夢二とともに

平成24年度［2012］

390 すべての僕が沸騰する ―村山知義の宇宙―
391 井田照一の版画
392 KATAGAMI Style ―もうひとつのジャポニスム
393 近代洋画の開拓者 高橋由一
394 日本の映画ポスター芸術
395 山口華楊展
396 開館50周年記念特別展 交差する表現 工芸／デザイン／総合芸術

平成25年度［2013］

397 芝川照吉コレクション展～青木繁・岸田劉生らを支えたコレクター
398 泥象 鈴木治の世界 ―「使う陶」から「観る陶」、そして「詠む陶」へ―
399 映画をめぐる美術 ―マルセル・ブロータースから始める
400 皇室の名品―近代日本美術の粋
401 Future Beauty 日本ファッション：不連続の連続
402 チェコの映画ポスター テリー・ポスター・コレクションより

平成26年度［2014］

403 上村松篁展
404 うるしの近代 ―京都、「工芸」前夜から
405 ホイッスラー展
406 現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展 ヤゲオ財団コレクションより

平成27年度［2015］

407 ポスターにみる ミュージカル映画の世界
408 ユネスコ無形文化遺産登録記念 北大路魯山人の美 和食の天才
409 現代陶芸の鬼才 栗木達介展
410 琳派400 年記念「琳派イメージ」展
411 文化勲章受章記念 志村ふくみ ―母衣への回帰―

平成28年度［2016］

412 オーダーメイド：それぞれの展覧会
413 キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより
414 ポール・スミス展 HELLO, MY NAME IS PAUL SMITH
415 あの時みんな熱かった！ アンフォルメルと日本の美術
416 メアリー・カサット展
417 茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術
418 endless 山田正亮の絵画

平成29年度［2017］

419 戦後ドイツの映画ポスター
420 技を極める ―ヴァン クリーフ＆アーペル ハイジュエリーと日本の工芸
421 絹谷幸二 色彩とイメージの旅
422 岡本神草の時代
423 ゴッホ展 巡りゆく日本の夢
424 明治150年展 明治の日本画と工芸

平成30年度［2018］

425 生誕150年 横山大観展
426 バウハウスへの応答
427 生誕110年 東山魁夷展
428 没後50年 藤田嗣治展
429 世紀末ウィーンのグラフィック デザインそして生活の刷新にむけて
430 京都の染織 1960年代から今日まで

平成31年度／令和元年度［2019］

431 京都新聞創刊140年記念 川勝コレクション 鐘溪窯 陶工・河井寛次郎
432 トルコ文化年2019 トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美
433 ドレス・コード？ ――着る人たちのゲーム
434 円山応挙から近代京都画壇へ
435 記憶と空間の造形 イタリア現代陶芸の巨匠 ニーノ・カルーソ

平成31／令和元年度展覧会

Exhibitions 2019

平成31／令和元年度展覧会一覧表 Table of Exhibitions 2019

回数	展覧会名	会期	開催日数	入場者数 総数	入場者数 1日平均	備考
430	京都の染織 1960年代から今日まで	[3.8] 4.1～ 4.14	[33] 12	[13,131] 6,654	[398] 555	共催：京都新聞 ※展覧会詳細は前年度『活動報告』に掲載
431	京都新聞創刊140年記念 川勝コレクション 鐘溪窯　陶工・河井寛次郎	4.26～6.2	34	17,300	509	共催：京都新聞
432	トルコ文化年2019 トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美	6.14～7.28	39	76,490	1,961	共催：トルコ共和国大使館、日本経済新聞社、BS-TBS、京都新聞
433	ドレス・コード？ ――着る人たちのゲーム	8.9～10.14	57	38,281	672	共催：公益財団法人京都服飾文化研究財団
434	円山応挙から近代京都画壇へ	11.2～12.15	38	60,122	1,582	共催：朝日新聞社、京都新聞、NHK京都放送局
435	記憶と空間の造形 イタリア現代陶芸の巨匠 ニーノ・カルーソ	R2.1.4～2.16	38	10,378	273	特別展
合計	延べ		218	209,225	960	[ ]は会期通算期間、参考として記載、合計には含まない。
	コレクション展（全6回）	3.8～R2.3.1	269	200,077	744	コレクション展のみの入館者数：29,055
総計	延べ			409,302		

※「チェコ・デザイン100年の旅」展（会期：令和2年3月6日（金）～5月10日（日））および「日本・ポーランド国交樹立100周年記念　ポーランドの映画ポスター」展（会期：令和2年3月17日（火）～5月10日（日））の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大に伴い、感染予防・拡散防止のために令和2年2月29日（土）～5月25日（月）まで臨時休館した。この影響により両展とも会期を延長し、「チェコ・デザイン100年の旅」展は7月5日（日）まで、「日本・ポーランド国交樹立100周年記念　ポーランドの映画ポスター」展は、7月12日（日）までの開催となった。両展とも実際の開幕日は5月26日（火）となるため、展覧会情報については令和2年度の『活動報告』に掲載する。

コレクション展 Collection Gallery

当館所蔵の日本画、洋画、版画、彫刻および陶芸、染織、金工、木竹工、漆工、ジュエリーなどの工芸、写真などの中から適宜作品を選択して紹介。年間約5回の展示替により、日本の近代美術の大きな流れの中の代表作や記念的な作品をおりまぜて展示するとともに、欧米の近・現代の作品もあわせて展示し、エデュケーショナル・スタディズを含む、以下のようなテーマ展示を行った。

平成31／令和元年度コレクション展記録
Collection Gallery 2019

第1回コレクション展
平成31年3月8日（金）～4月21日（日）、計104点

- ウィリアム・ケントリッジ《俺は俺ではない、あの馬も俺のではない》〔平成30年12月21日（金）～〕
- 春の日本画
- 西洋近代美術の巨匠たち
- 近代京都の陶芸と漆芸
- 水彩画

第2回コレクション展
平成31年4月26日（金）～令和元年6月9日（日）、計159点

- 没後80年 村上華岳（前期）
- 近代アメリカの写真家たち：ギルバート・コレクションより
- 河井をめぐる作家たち―棟方志功、芹沢銈介、黒田辰秋―
- 太田喜二郎
- 特集：井田照一と戦後の版画表現

第3回コレクション展
令和元年6月12日（水）～8月4日（日）、計138点

- 没後80年 村上華岳（後期）
- ボタニカル・ガーデン：植物スケッチから工藤哲巳まで
- 世界のガラス工芸
- 川勝コレクション 河井寛次郎作品選
- 日本洋画にみる花

第4回コレクション展
前期：令和元年8月8日（木）～9月8日（日）／
後期：9月10日（火）～10月27日（日）、計125点
〔前期：99点、後期：97点（展示替え：26点）〕

- 和装いろいろ
- 夏の日本画（前期）／秋の日本画（後期）
- 装束：日本のドレス・コード
- 日本の装い
- 河井寛次郎作品選
- 装う人／脱ぐ人
- ICOM開催記念 特別展示 絹谷幸二

第5回コレクション展
令和元年10月30日（水）～12月22日（日）、計141点

- 円山・四条派の系譜―近代京都画壇より
- 生誕130年 野島康三の写真
- 近代工芸の花鳥風月
- 日本洋画と装飾性

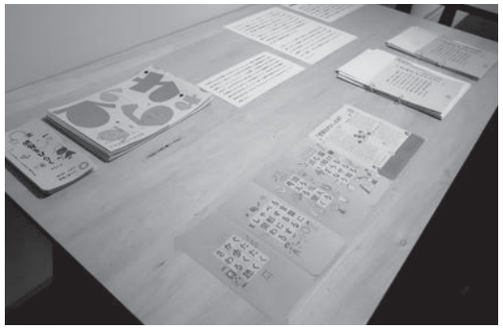
第6回コレクション展
令和2年1月4日（土）～3月1日（日）、計101点
（新型コロナウイルス感染症の影響により2月29日（土）～3月1日（日）臨時休館）

- 冬の日本画
- シリーズ：検証「現代美術の動向展」1966–1970
- イタリアの現代陶芸
- 川勝コレクション 河井寛次郎作品選
- 建造物を描く
- エデュケーショナル・スタディズ「感覚をひらく―新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」〔エデュケーショナル・スタディズ〕の項目を参照

「2019年度第6回コレクション展」の一角にて、「感覚をひらく―新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」の一環として2017年度から継続的に制作している触察ツール「さわるコレクション」と、制作の元になった所蔵作品をあわせて展示した。

「感覚をひらく
―新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」
令和2年1月4日(土)～3月1日(日)、計5点
(新型コロナウイルス感染症の影響により2月29日(土)～3月1日(日)臨時休館)

会場風景


会場風景

会場風景

京都新聞創刊140年記念
川勝コレクション 鐘渓窯
陶工・河井寛次郎展
Potter Kawai Kanjiro: Works from the Kawakatsu Collection

共催：京都新聞
特別協力：河井寛次郎記念館
会期：2019年4月26日(金)～ 6月2日(日)（34日間）
入場者数：17,300人(一日平均：509人)

Co-organizer: The Kyoto Shimbun
Special Cooperation: KAWAI Kanjiro's House
Dates: Friday, April 26–Sunday, June 2, 2019
Visitors: 17,300(509 per day)

ポスターデザイン：大向デザイン事務所(大向務＋坂本佳子＋吉澤七海)

当館は、質、量ともに最も充実した河井寛次郎作品のパブリック・コレクション（川勝コレクション）を所蔵している。計425点にも上る川勝コレクションは、初期から最晩年にいたる河井の作品を網羅しており、川勝自身が「これは、川勝だけの好きこのみだけでもなく、時として、河井自らが川勝コレクションのために作り、また、選んだものも数多いのである」と回想するように、河井の仕事の全貌を物語る「年代作品字引」となっている。

これまで当館では1968年以降、三回にわたり、川勝コレクションをまとめて紹介する河井寛次郎展を開催したほか、コレクションギャラリーにおいて定期的に河井作品を紹介してきた。しかし、川勝コレクションが「年代作品字引」としての性格を持っているにもかかわらず、これまでは作品の年代の検証などが十分に行われてこなかった。そのために今回、様々な資料を通じて川勝コレクションの河井作品の制作年を再検証し、その成果を『京都国立近代美術館作品集 川勝コレクション 河井寛次郎』として刊行した。

展覧会では、川勝コレクションの中から241点の河井作品を選定し、そこに30件の関連資料と河井と交遊関係のあった濱田庄司、バーナード・リーチ、富本憲吉らの作品を併せて紹介することで、河井と川勝の友情を軸に河井の創作活動の変遷をたどるとともに「民藝」における創造的側面も検証した。

本展は、8月24日から10月20日まで愛知県陶磁美術館でも開催された。

（大長智広）

Among the museum's holdings are the Kawakatsu Collection, the most substantial public collection of works by Kawai Kanjiro in terms of both quality and quantity. Comprised of 425 items, the collection stretches from the beginning to the end of Kawai's career, forming a "chronological encyclopedia" of his entire output. As Kawakatsu Kenichi, who assembled the collection, reminisced, "This is not just a collection that reflects my own tastes – Kawai sometimes produced works especially for the collection, and it should be seen as the embodiment of our friendship."

Since 1968, three Kawai Kanjiro exhibitions showcasing the Kawakatsu Collection have been held at the museum. In addition, the artist's works have been regularly presented in the Collection Gallery. Despite the fact that the Kawakatsu Collection has the character of a "chronological encyclopedia," in the past not enough was done to verify the date of each work. Therefore, for this exhibition, a special effort was made to determine the year that each piece was made by referring to a variety of documents. This resulted in the publication of Kawai Kanjiro: the Kawakatsu Collection in the National Museum of Modern Art, Kyoto.

A total of 241 of Kawai's works were specially selected from the Kawakatsu Collection for this exhibition. These pieces were introduced in conjunction with 30 related documents, and the works of artists who had a close relationship with Kawai, such as Hamada Shoji, Bernard Leach, and Tomimoto Kenkichi. This made it possible to examine the vicissitudes of Kawai's career as well as creative aspects of the Mingei movement by focusing on the friendship between Kawai and Kawakatsu.

The exhibition was also held at the Aichi Prefectural Ceramic Museum from August 24 to October 20.

(DAICHO Tomohiro)

カタログ
Exhibition Catalogue

日本語：21.0×19.1cm、367頁
図版 カラー426点; 参考図版 カラー1点、モノクロ31点

収録論文等
「発刊によせて」柳原正樹
「陶工・河井寛次郎」松原龍一
「不滅の炎に捧ぐ」川勝堅一
「河井寛次郎と川勝堅一 ―友情が生んだ珠玉のコレクション」大長智広
「河井寛次郎年譜」

編集：京都国立近代美術館
執筆：柳原正樹、松原龍一（京都国立近代美術館）、川勝堅一、大長智広（京都国立近代美術館）
デザイン：大向デザイン事務所（大向務＋坂本佳子＋吉澤七海）
印刷：日本写真印刷コミュニケーションズ株式会社
発行：合田有作
発行所：光村推古書院株式会社

鑑賞ガイド
Self Guide

日本語：21.0×9.9 cm（A4三折り）、1枚
発行：京都国立近代美術館

新聞雑誌等関係記事
Articles

【新聞記事】

京都：1月4日「19年本紙主催事業 川勝コレクション 鐘渓窯 陶工・河井寛次郎」

京都：3月27日「河井と川勝―友情が生んだ珠玉の大コレクション 川勝コレクション鐘渓窯 陶工・河井寛次郎 寛次郎と私」（鷺珠江）

京都：4月23日「京都新聞創刊140年記念 川勝コレクション 鐘渓窯 陶工・河井寛次郎 暮らしの美 生命の歓喜」（河村亮）

京都：4月26日「河井寛次郎 支えた交流 きょうから京近美 川勝コレクション展」（河村亮）

神戸：5月2日「〈友情の結晶〉収集品一堂に」（堀井正純）

京都：5月13日「陶工・河井寛次郎展から 友情が生んだ大コレクション① 白地草花絵偏壺 無断で出品 グランプリに」（大長智広）

京都：5月14日「陶工・河井寛次郎展から 友情が生んだ大コレクション② 黄釉象嵌縞文鉢 装飾効果を模様に」（大長智広）

京都：5月15日「陶工・河井寛次郎展から 友情が生んだ大コレクション③ 黄釉筒描花文扁壺 筒描の線 のびやかに」（大長智広）

京都：5月15日「京都新聞創刊140年記念 川勝コレクション 鐘渓窯 陶工・河井寛次郎 スペシャル座談会 京都のつくり手4人が語る寛次郎さんのココが好き！」

京都：5月15日「陶工・河井寛次郎展から 友情が生んだ大コレクション④ 三色打薬扁壺 不安定と安定の間」（大長智広）

京都：5月15日 開催中－京都新聞の主催事業カラ―「寛次郎作品〈色に注目を〉京近美で〈川勝コレクション〉展示」（林屋祐子）

京都：5月18日「河井と川勝―友情が生んだ珠玉の大コレクション 川勝コレクション 鐘渓窯　陶工・河井寛次郎 寛次郎と私」（青木伸）

京都：5月20日「陶工・河井寛次郎展から　友情が生んだ大コレクション⑤ 呉須筒描陶板〈手考足思〉自他合一の世界観」（大長智広）

京都：5月24日「河井と川勝―友情が生んだ珠玉の大コレクション 川勝コレクション鐘渓窯 陶工・河井寛次郎 色で楽しむ寛次郎」

京都：5月25日 情報ワイド「自他合一の仕事。京近美 河井寛次郎展 桂南光さん研究員とトーク」（林屋祐子）

京都：5月27日「河井と川勝―友情が生んだ珠玉の大コレクション 川勝コレクション鐘渓窯 陶工・河井寛次郎 色で楽しむ寛次郎」

朝日：5月29日「友が残した陶工の変遷 民藝運動の河井寛次郎 左京で270点」（森本俊司）

毎日：6月1日「生涯の名陶 一堂に」（南陽子）

【雑誌記事その他】

京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 502（5-6月号）「〈工作人〉としての河井寛次郎」（宮川智美）

京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 503（7-8月号）「友情の結晶《川勝コレクション 河井寛次郎」（川井遊木）

京都国立近代美術館 友の会ニュース 2018年3月号no. 66「京都新聞創刊140年記念 川勝コレクション 鐘渓窯 陶工・河井寛次郎」

文化庁広報誌ぶんかる（Web）2019年4月アートダイアリー057「川勝コレクション 鐘渓窯 陶工・河井寛次郎」（大長智広）

Kansai Walkers 2019年5月Vol. 625「京 都ひとり旅Theme4 早見表で気ままにまわる美術館＆博物館」（土山里子）

文教速報2019年5月17日第8703号「鐘渓窯 陶工・河井寛次郎　京近美で〈川勝コレクション〉展」

文教ニュース2019年5月20日第2547号「京都国立近代美術館〈陶工・河井寛次郎展〉開幕」

京都画廊連合会ニュース2019年5月号No. 529「友情が生んだ珠玉の川勝コレクション 鐘渓窯 陶工・河井寛次郎」

会場風景（撮影：河田憲政）

トルコ文化年2019

トルコ至宝展

チューリップの宮殿トプカプの美

2019 Turkish Culture Year
The Treasures and the Tradition of "Lâle" in the Ottoman Empire

共催：トルコ共和国大使館、日本経済新聞社、BS-TBS、京都新聞
後援：トルコ共和国大統領府
協賛：伊藤忠商事、損保ジャパン日本興亜、ダイキン工業、大日本印刷、東レ、トヨタ自動車、日本製粉、BIGLOBE
特別協力：ターキッシュ エアラインズ、ターキッシュ カーゴ
協力：トルコ共和国文化観光省、トプカプ宮殿博物館、日本・トルコ協会、MBS
会期：2019年6月14日(金)～ 7月28日(日)（39日間）
入場者数：76,490人(一日平均：1,961人)

Co-organizer: Embassy of the Republic of Turkey in Japan; Nikkei Inc.; BS-TBS, INC.; The Kyoto Shimbun
Support: Presidency of the Republic of Turkey
Sponsorship: ITOCHU Corporation; Sompo Japan Nipponkoa Insurance Inc.; DAIKIN INDUSTRIES, LTD.; Dai Nippon Printing Co., Ltd.; Toray Industries, Inc.; TOYOTA MOTOR CORPORATION; Nippon Flour Mills Co., Ltd.; BIGLOBE Inc.
Special cooperation: Turkish Airlines, Turkish Cargo
Cooperation: Ministry of Culture and Tourism, Republic of Turkey; The Topkapi Palace Museum; The Japan-Turkey Society; MBS
Dates: Friday, June 14–Sunday, July 28, 2019
Visitors: 76,490(1,961 per day)

ポスターデザイン：シルシ(上田英司)

本展はトルコ共和国トプカプ宮殿博物館及び国立宮殿局のコレクションによりオスマン帝国の文化芸術を紹介する企画であり、3章で構成された。第1章は皇帝(スルタン、ハーン又はパーディシャー）の権威と財力を物語る玉座や武具、宝飾等を展示。第2章はオスマン帝室の神聖性を象徴すると考えられた「ラーレ」(チューリップ)の文様で彩られた衣装、武具、写本、礼拝用の道具、陶磁器、ガラス器、織物等を展示。ラーレの重要性に着目し、モノによって示し得たのが本展の新機軸である。第3章は、エルトゥールル号遭難事件の前後における日本とトルコの文化交流を伝える品々を展示し、両国の友好関係を文化面からも捉えることができた。

展示にあたっては、オスマン帝国の建築を思わせる列柱や、モスクの青いタイルを模した壁紙等の造作により、トルコ風の空間を演出した。また、スレイマン1世の後宮を舞台にした漫画作品とのコラボレーションとして、その漫画の絵を使用した撮影スポットを設置したところ、そこで撮影した写真がSNSに多く流れ、広報に効果があった。G20大阪サミットのため来日したトルコ共和国エルドアン大統領が来館したことも話題になった。

関連イベントとして、イスラーム美術史の専門家であるヤマンラール水野美奈子氏(本展監修者)や奥村純代氏、ジラルデッリ青木美由紀氏による講演会を開催した。

本展は当館に先立ち3月20日から5月20日まで国立新美術館で開催された。

(梶岡秀一)

This exhibition, made up of three sections, showcased the art and culture of the Ottoman Empire as seen in works from the collections of the Topkapi Palace Museum and the National Palaces of the Turkish Republic. The first section focused on items such as thrones, weapons, and jewelry, which displayed the authority and wealth of imperial rulers such as sultans, khans, and padishahs. The second section was devoted to clothing, arms, manuscripts, tools of religious worship, ceramics, glassware, and fabrics bearing lâle (tulip) patterns, which are believed to symbolize the scared nature of the Ottoman Empire. This focus on the importance of lâle, as manifested by various objects, was one of the exhibition's innovative features. The third section presented a wide range of items that conveyed the cultural exchanges that occurred between Japan and Turkey around the time of the Ertugrul, an Ottoman frigate that sank in Japanese waters in 1890. These displays also evoked the friendly relationship between the two nations from a cultural viewpoint.

The exhibition space was imbued with a Turkish atmosphere due to features such as lined pillars, which were reminiscent of Ottoman architecture, and furnishings such as wallpaper that resembled the blue tiles of a mosque. Moreover, in a collaboration with a manga set in Süleyman I's harem, spots were set up in the museum to allow visitors to take photographs with pictures from the work. Many of these photographs were posted on social media sites, effectively publicizing the exhibition. The fact that the Turkish president Recep Tayyip Erdoğan, who was in Osaka for the G20 Summit, also visited the museum also became a topic of conversation.

Lectures by Mizuno Yamanlar Minako, a specialist in Islamic history who also served as general supervisor for the exhibition, and the Turkish researchers Okumura Sumiyo and Girardelli Aoki Miyuki were also presented as related events.

Prior to being held at the museum, the exhibition was presented at the National Art Center, Tokyo from March 20 to May 20.

(KAJIOKA Shuichi)

カタログ
Exhibition Catalogue

日本語、トルコ語、英語：19.5×24.6cm、423頁
図版 カラー175点; 参考図版 カラー36点、モノクロ3点

収録論文等
「トプカプ宮殿について」ムスタファ・サプリ・キュチュクアシュチュ
"Topkapı Sarayı'na Dair" Mustafa S. KÜÇÜKAŞCI
"Topkapı Place"
「オスマン王朝の象徴」カドリイェ・オズブユク
"Osmanlı Saltanat Sembolleri" Kadriye ÖZBIYIK
"The Symbols of the Ottoman Sultanate"
「オスマン帝国の宮殿と美術におけるチューリップ」スィベル・アルプアスラン・アルチャ、ゼイネプ・アトゥバシュ、アイシェ・エルドードゥ、セリン・イペク
"Osmanlı Sarayı ve Sanatında Lâle" Sibel ALPASLAN ARÇA, Zeynep ATBAŞ, Ayşe ERDOĞDU, Selin İPEK
"The Tulip in the Ottoman Court and Art"
「オスマンの宮殿における日本の作品群」アイシェ・エルドードゥ
"Osmanlı Saraylanrında Japon Eserleri" Ayşe ERDOĞDU
"Japanese Artworks in Ottoman Palaces"
「作品解説」アフメト・アイハン、アイシェ・エルドードゥ、アイシェ・ウナル、ブルジュ・ギュレル、ブルジュ・ユルマズ、ハンデ・ギュンヨル、ジャーナン・ジミッリ、カドゥリイェ・オズブユク、クイメト・イシェリ、メルヴェ・チャクル、オミュル・トゥファン、ラマザン・アクテムル、セダー・ユクセル、セリン・イペク、セルカン・ゲデュク、セヴギ・ディケル、スィベル・アルプアスラン・アルチャ、ゼイネプ・アトゥバシュ(以上、トプカプ宮殿博物館)、デメト・ジョシャンセル・カラクッルクチュ、ギョクシェン・ジャンユルマズ、ジェイラン・アイドゥン、ヌルテン・オズトゥルク(以上、国立諸宮殿)、有木宏二、梶岡秀一、松原龍一
"Eser Tanımalaması"
"Commentary on the Exhibits"
「本展関連年表 チューリップと日土交流を中心に」編／土方浦歌、村松綾、監修／ヤマンラール水野美奈子
"Bibliyografya"
"Bibliography"
「日本語参考文献」編／土方浦歌

編集：国立新美術館、有木宏二、土方浦歌、高野詩織、村松綾(国立新美術館)、日本経済新聞社 文化事業部
執筆：ムスタファ・サプリ・キュチュクアシュチュ(歴史家)、アイシェ・エルドードゥ(中国・日本陶磁器専門学芸員)、セリン・イペク(スルタン肖像画専門学芸員)、ゼイネプ・アトゥバシュ(写本図書室専門学芸員)、スィベル・アルプアスラン・アルチャ(スルタン衣装専門学芸員)、カドゥリイェ・オズブユク(宝物館専門学芸員)、有木宏二、松原龍一、梶岡秀一(京都国立近代美術館)
翻訳：トルコ語・日本語訳　ヤマンラール水野美奈子、ジラルデッリ青木美由紀(美術史家)、日本語・英語訳　リチャード・L・ピーターソン
日本語・トルコ語訳　奥村純代(美術史家)
トルコ語・英語訳　株式会社バイリンガル・グループ
学術協力：ヤマンラール水野美奈子、ジラルデッリ青木美由紀
翻訳監修：ヤマンラール水野美奈子
アートディレクション：上田英司(シルシ)
グラフィック・デザイン：上田英司、叶野夢(シルシ)
制作：美術出版社 デザインセンター
印刷・製本：大日本印刷
発行：日本経済新聞社

TV・ラジオ関係放送
TV, Radio

ラジオ大阪：6月13日 高岡美樹のべっぴんラジオ
「あっちこっち行ってみ～」

毎日放送：6月14日 ちちんぷいぷい

洛西ケーブルテレビジョン：6月30日、7月1日、7-8日、14-15日
ニュースワイド京都「京(みやこ)ミュージアムNAVI」

新聞雑誌等関係記事
Articles

【新聞記事】

日経：1月1日 日経グループ2019年の主な事業「文明の十字路 彩る美 トルコ至宝展」

日経：1月15日 アート・ライフfrom NIKKEI「大帝国の栄華 スルタンの夢 文明の十字路の宝物展」

日経：5月25日 特集「〈トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美〉特集 華開いたチューリップ文化 神と王朝結ぶ象徴 オスマン帝国栄えた証し／東西文化集積 豪華な170点」(岩本文枝)

京都：6月12日「トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美 帝国の栄華と日本交流」(住吉哲志)

京都：6月14日「オスマン帝国の至宝 優美」(住吉哲志)

日経：6月17日「トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美 勇気・神の花、宝物に表現」

神戸：6月27日「京都で〈トルコ至宝展〉帝国の栄華伝える170点」(金井恒幸)

読売：7月7日「オスマン帝国の至宝170点 チューリップ文様の衣装食器など」

毎日：7月8日「栄華極めたトルコの至宝 国立近代美術館チューリップ柄の敷物も」(南陽子)

日経：7月5日「トルコ至宝展 展覧会評 王権彩るチューリップ柄」(高階絵里加)

産経：7月12日(夕)美と遊ぶ「トルコ至宝展 京都国立近代美術館 チューリップあちこちに」(正木利和)

中日：7月12日「チューリップが彩る美 京都で〈トルコ至宝展〉オスマン帝国の象徴」(川原田喜子)

京都：7月18日「〈トルコ至宝展〉5万人突破 左京」(住吉哲志)

日経：7月18日 ピックアップ「トルコ至宝展入場5万人 京都国立近代美術館」

読売：7月18日(夕)「栄華極めたオスマンの至宝 チューリップの意匠 詩集や絵皿に 京都国立近代美術館170点」(藤本幸大)

京都：7月18日「《トルコ至宝展》5万人突破 左京」(住吉哲志)

京都：9月28日「トルコ殖産 広大な視野。 大谷光瑞の活動を考察 龍谷大学ミュージアムで講演会」(林屋祐子)

【雑誌記事その他】

京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 503(7-8月号)「オスマン帝国、エルトゥールル号と宗教の政治」(上野雅由樹)

京都国立近代美術館 友の会ニュース 2019年5月号no. 67「トルコ文化年2019 トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美」

京都国立近代美術館 友の会ニュース 2019年6月号no. 68「トルコ文化年2019 トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美」

京都画廊連合会ニュース2019年6月号No. 530

編集サービス2019年6月20日Vol. 827「京都国立近代美術館〈トルコ至宝展〉チューリップ文化を体感」

文教速報2019年6月28日第8721号「京近美で〈トルコ至宝展〉開幕」

月刊京都2019年7月No. 816 今月 注目の催し「東西文明の十字路で育まれた遺産・財宝、約170点が来日」

京都画廊連合会ニュース2019年7月号No. 531

会場風景(撮影：河田憲政)

433 共催展

ドレス・コード？ ――着る人たちのゲーム
Dress Code: Are You Playing Fashion?

共催：公益財団法人 京都服飾文化研究財団
後援：京都府、京都市、京都商工会議所、
一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会、
一般社団法人日本ボディファッション協会
特別協力：株式会社ワコール
協力：KLMオランダ航空、株式会社七彩、センクシア株式会社、日本航空、
ヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社
助成：オランダ王国大使館、モンドリアン財団
協賛：MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社
会期：2019年8月9日(金)～ 10月14日(月・祝)(57日間)*
入場者数：38,281人(一日平均：672人)
＊10月12日(土)は、台風19号の接近・通過に伴い全日休館。

Co-organizer: The Kyoto Costume Institute (KCI)
Support: Kyoto Prefecture; Kyoto City; Kyoto Chamber of Commerce and Industry; Japan Apparel-Fashion Industry Council; Nihon Body Fashion Association
Special Cooperation: Wacoal Corp.
Cooperation: Japan Airlines; KLM Royal Dutch Airlines; NANASAI CO., LTD.; SENQCIA CORPORATION; Yamato Global Logistics Japan Co., Ltd.
Grant: Embassy of the Kingdom of the Netherlands, Mondriaan Fund
Sponsorship: MHD Moët Hennessy Diageo K.K.
Dates: Friday, August 9–Monday, October 14, 2019
Visitors: 38,281(672 per day)
* The museum was closed all day on Saturday, October 12 due to the approach and passage of Typhoon No. 19.

ポスターデザイン：西岡勉

8回目を迎える京都服飾文化研究財団(KCI)との共同企画展は、第25回国際博物館会議(ICOM)京都大会にあわせて開催された。「ドレス・コード」をテーマに、18世紀の宮廷服からストリートカルチャーを吸収した現代服まで、KCIのコレクションから精選した約90点を中心に、アート、映画、漫画などに描かれたファッションも視野に入れた300点を超える作品で構成し、現代における新たな〈ドレス・コード〉、私たちの装いの実践を紹介した。

今回の展覧会では、13の架空のドレス・コードを設定し、デニムやスーツ、迷彩柄といったファッション・アイテムの歴史的な変遷を紹介しつつ、人物像と服装のステレオタイプ化された関係について、衣装や現代美術、演劇など幅広いジャンルを通して批評的に考察した。ヒール靴やビジネススーツといった従来の服装規定に対する根本的な見直しが進む社会情勢とも響きあい、展覧会のテーマを身近な問題として真摯に受け止めた鑑賞者も多かった。会場デザインには建築家の元木大輔氏を起用、企画コンセプトをより効果的に伝える、OAフロアを使った斬新な展示空間を実現できたと同時に、建築・デザイン関係者からも注目を集めた。

This exhibition, the eighth collaborative event created with the Kyoto Costume Institute (KCI), was designed to coincide with the 25th International Council of Museums (ICOM). Based on the theme of “dress codes,” the exhibition consisted of over 300 works, including some fashions that were depicted in art, film, and manga, and introduced the present-day practice of dressing according to new codes. At the center of the exhibition were approximately 90 items, carefully selected from the KCI collection, which stretched from 18th-century court clothing to contemporary fashion influenced by street culture.

By establishing 13 fictional dress codes, the exhibition introduced the historical vicissitudes of fashions such as denim, suits, and camouflage, and critically examined stereotypical relationships between people and clothing by referring to a wide range of genres, including apparel, contemporary art, and theatre. Many viewers took a serious approach to the exhibition’s themes as familiar issues that reflected current social conditions characterized by a fundamental reappraisal of conventional dress codes, such as high-heel shoes and business suits. The exhibition venue was designed by the architect Motogi Daisuke. It was distinguished by innovative display spaces, which made use of raised floors to more effectively convey the exhibition’s concepts. This was also the subject of much attention among those working in the architecture and design fields.

After being held at the museum, the exhibition

なお本展は当館での開催後、熊本市現代美術館（会期：2019年12月8日～2020年2月23日）と東京オペラシティアートギャラリー（会期：2020年7月4日～8月30日）へと巡回した。さらにドイツ・ボンの連邦共和国美術展示館への巡回を予定している。

（牧口千夏）

traveled to the Contemporary Art Museum, Kumamoto (December 8, 2019–February 23, 2020) and Tokyo Opera City Art Gallery (July 4–August 30, 2020). It is next slated to be held at the Bundeskunsthalle in Bonn, Germany.

(MAKIGUCHI Chinatsu)

カタログ
Exhibition Catalogue

日本語、英語：24.0×18.5 cm、308頁
図版 カラー110点; 参考図版 カラー3点、モノクロ13点

収録論文等
「ドレス・コードをめぐって―明日着る服を考えるために」石関亮
'Concerning Dress Code: Thinking about the Clothes We Will Wear in the Future' Makoto Ishizeki
「着る人たちのゲーム―登場人物紹介」牧口千夏
'Dramatis Personae of Are You Playing Fashion?'' Chinatsu Makiguchi
「伝統とファッションのはざまを装う―中国のモン衣装における変化と規範」宮脇千絵
'Dress in between Tradition and Fashion: Transformation and Rules for Hmong Dress in China' Chie Miyawaki
「ファッションをめぐる相互行為―ステレオタイプ論序説」小形道正
'Interaction Involving Fashion: An Introduction to the Theory of Stereotypes' Michimasa Ogata

企画・編集：牧口千夏（京都国立近代美術館）、石関亮、小形道正（京都服飾文化研究財団）
編集補助：池澤茉莉（熊本市現代美術館）
執筆：牧口千夏、石関亮、小形道正、宮脇千絵（南山大学准教授）、周防珠実、新居理絵、筒井直子、松坂雅子（京都服飾文化研究財団）、池澤茉莉
ブックデザイン：西岡勉
翻訳：クリストファー・スティヴンズ、有限会社フォンテーヌ
編集協力：木村しのぶ（福本事務所）
印刷・製本：NISSHA株式会社
プリンティング・ディレクター：福本安男
印刷進行：中上喜夫、和田智之
発行：京都服飾文化研究財団

新聞雑誌等関係記事
Articles

【新聞記事】

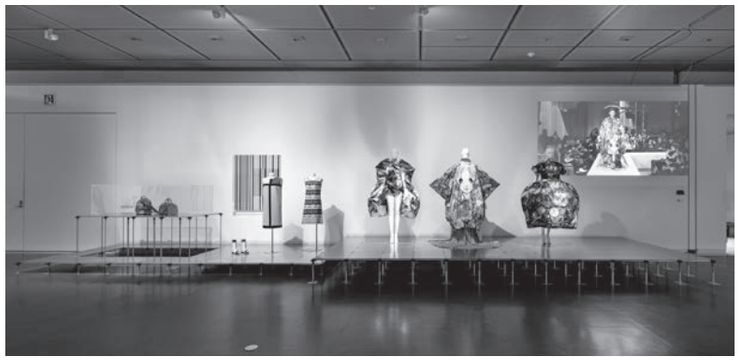
京都：8月8日「スーツ＝大人のユニホーム＝個性 展示でたどるドレス・コード」
京都：8月9日「立場の主張?個性の表現? ファッションで社会考える」（行司千絵）
繊維：8月14日「〈ドレス・コード?着る人たちのゲーム展〉が開幕」
日経：8月23日（夕）「〈ドレス・コード?―着る人たちのゲーム〉展 服装の暗黙ルール問う」（林田新）
京都：8月29日「左京で《ドレス・コード?》展〈視る、視られる〉を表現 着るということを考える」（行司千絵）
朝日：8月29日「〈ドレス・コード〉って?装い問う 京都国立近代美術館」（田中ゑれ奈）
朝日：8月29日「折々のことば」（鷲田清一）
読売：9月1日「問いかける〈ドレス・コード〉国内外の衣装など300点 左京で特別展」
読売：9月6日（夕）モード「移ろうドレスコード」（谷本陽子）
読売：9月21日 今日のノート「装いのルール」（仲舘総子）
朝日：9月24日（夕）「13のドレス・コード 常識への挑戦」（田中ゑれ奈）
毎日：9月25日（夕）「ドレス・コード? 着る人たちのゲーム 同時代性を打ち出す」（永田晶子）
毎日：9月30日「服を着る行為はゲーム 京都国立近代美術館で特別展 写真や映像 見応えある300点」（南陽子）
朝日：10月21日（夕）「Collection@京都国立近代美術館〈人と違っていい〉貫く個性」
朝日：11月18日 おしゃれ旬評「〈服〉を問う 注目ブランド」（米澤泉）
朝日：12月17日（夕）「美術や美術館のあり方は@関西」（田中ゑれ奈）
毎日：12月19日（夕）「この1年 美術 美術評論家が選ぶ展覧会3選」（島敦彦）
読売：令和2年8月27日「〈ドレス・コード展〉企画の3氏らに学術賞」
京都：令和2年8月29日「アートスクエア 賞」

【雑誌記事その他】

京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 504（9-10月号）「わざわざ展覧会を観に行く意味をデザインする―元木大輔氏に聞く」（文責・構成：牧口千夏、本橋仁）
京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 505（11-12月号）「ファッション展は遅延性の衝突により批評する」（保坂健二朗）
京都国立近代美術館 友の会ニュース 2019年6月号no. 68「ドレス・コード?―着る人たちのゲーム」
京都国立近代美術館 友の会ニュース 2019年9月号no. 69「ドレス・コード?―着る人たちのゲーム」
服をめぐる 衣服の研究現場より 2019年7月第13号「京都服飾文化研究財団（KCI）はこの夏〈ドレス・コード?―着る人たちのゲーム〉展を開催します」
Colon 2019年8月号Vol. 81「明日着る服、美術館行って考えよう。ドレス・コード?―着る人たちのゲーム 京都国立近代美術館」（取材・文：colon編集部／撮影〈人物〉：佐藤祐樹）
文化庁広報誌ぶんかる（Web）2019年8月アートダイアリー061「今日着ている服、あなたはどうやって選びましたか?〈ドレス・コード?――着る人たちのゲーム〉」（牧口千夏）
美術手帖2019年8月9日「私たちにとっての〈ファッション〉とは?京都国立近代美術館で〈ドレス・コード?――着る人たちのゲーム〉展が開幕」https://bijutsutecho.com/magazine/news/report/20323
Numéro2019年9月号「182 the dress code : games of fashion 時代をめぐる〈ドレス・コード〉たち」（インタビュー：KCIキュレーター 石関亮／文：Itoi Kajiyama／編集：深沢慶太）
文教ニュース2019年9月2日Vol. 2562号「京近美〈ドレス・コード〉展開幕」
文教速報2019年9月第8746号「京近美〈ドレス・コード〉展が開幕」
Fashion Talks... 2019年Autumn Vol. 10 自己② on the self「展覧会のお知らせ」
第25回国際博物館会議京都大会ミュージアムガイドブック 2019年9月1～7日「京都国立近代美術館」
WWD ジャパン2019年10月11日「展示に隠された裏ドレスコード?企画担当者が〈ドレス・コード?〉展を解説」（秋吉成紀）
senken h 2019年vol.169「今日着ている服、あなたはどうやって選びましたか?装う意味をあらためて問う《ドレス・コード?――着る人たちのゲーム》展」
服をめぐる 衣服の研究現場より 2019年11月第14号「展覧会ワークショップ報告 ファッション用語の手話をつくりました!」
Fashion Talks... 2020年Spring第11号「展覧会レビュー《ドレス・コード?――着る人たちのゲーム》展① ファッション展は遅延性の衝突により批評する」（保坂健二朗）／「展覧会レビュー《ドレス・コード?――着る人たちのゲーム》展② 編む人たちのゲーム」（工藤雅人）

国際巡回展
«DRESS CODE – Das Spiel mit der Mode»

会期：2021年5月21日（金）～9月12日（日）
会場：ドイツ連邦共和国美術展示館（Bundeskunsthalle, Bonn）
主催：ドイツ連邦共和国美術展示館（Bundeskunsthalle, Bonn）、京都国立近代美術館、公益財団法人京都服飾文化研究財団


会場風景（撮影：長谷川健太）

円山応挙から近代京都画壇へ

Legendary Kyoto Painting from Maruyama Okyo to the Modern Era

共催：朝日新聞社、京都新聞、ＮＨＫ京都放送局
協賛：岡村印刷工業、JR西日本
会期：2019年11月2日(土)～ 12月15日(日)（38日間）
入場者数：60,122人(一日平均：1,582人)

Co-organizer: The Asahi Shimbun; The Kyoto Shimbun; NHK Kyoto Station
Sponsorship: OKAMURA PRINTING INDUSTRIES CO., LTD.;
WEST JAPAN RAILWAY COMPANY
Dates: Saturday, November 2- Sunday, December 15, 2019
Visitors: 60,122(1,582 per day)

ポスターデザイン：大向デザイン事務所(大向務＋坂本佳子＋吉澤七海)

江戸時代、京都では、伝統的な流派である京狩野、土佐派をはじめとして、池大雅や与謝蕪村などの文人画、近年一大ブームを巻き起こした伊藤若冲や曽我蕭白、岸駒を祖とする岸派や原在中の原派、大坂でも活躍した森派など、様々な画家や流派が群雄割拠のごとく特色のある画風を確立していた。しかし、明治維新以降、京都画壇の主流派となったのは円山・四条派であった。本展では、円山派の祖である円山応挙を始め、応挙に学び四条派の祖となった呉春、また両者に連なる画家の作品を一堂に並べ、京都において近代にまで受け継がれていった円山・四条派という流派の全貌に迫るとともに、日本美術史のなかで重要な位置を占める京都画壇の様相の一端を明らかにした。

円山派の画家たちが客殿の障壁画を描き、応挙寺とも呼ばれている兵庫県香住の大乗寺より、応挙や呉春の代表作とされている重要文化財の障壁画をお借りし、客殿での配置に倣って立体的な展示を行った。また、小学生以下の子どもとその保護者を対象として、開館前の朝の時間にゆっくり鑑賞できるプログラムを実施した。このプログラムでは、出品作に描かれた生き物について、京都市動物園副園長によるトークを行った。さらに、

会場風景(撮影：加藤成文)

In the Edo Period, Kyoto saw a diverse range of painters and schools establish many distinguished styles in a seeming rivalry between powerful warlords. This trend began with traditional schools of painting such as the Kyo Kano and Tosa, and continued with literati painters like Ikeno Taiga and Yosa Buson; Ito Jakuchu and Soga Shohaku, who have been the subject of a great deal of interest in recent years; the Kishi and Hara schools, led by Ganku and Hara Zaichu, respectively; and the Mori school, which was also active in Osaka. However, following the Meiji Restoration, Maruyama Okyo and the Maruyama school emerged as the mainstream in the Kyoto painting scene. This exhibition presented an overview of Maruyama Okyo, the founder of the eponymous school, Goshun, who established the Shijo school and also studied with Okyo, and a comprehensive display of works by the Maruyama-Shijo school, which was linked to both artists, and continued to be part of Kyoto's art scene well into the modern era. In this way, the exhibition shed light on the important role that the Kyoto scene played in Japanese art history.

The Maruyama school painters were involved in making murals for the reception halls at Buddhist temples. And for this exhibition, the museum was able to borrow some screen and wall paintings from Daijo-ji, a temple located in Kasumi, Hyogo Prefecture that is also known as Okyo Temple. These paintings have been designated as Important Cultural Properties and are recognized as some of Okyo and Goshun's most important works. The paintings were presented in a three-dimensional display modeled on the arrangement in the reception hall. A special program was also offered to allow preschool and elementary school children and their guardians to leisurely view the exhibition prior to the museum's regular opening time. The program included a talk by the vice-director of the Kyoto City Zoo on the various creatures that appeared in the works. The other related events, which were funded by the Japan Cultural Expo, were a virtual-reality display of the murals from Daijo-ji installed in the first-floor lobby, and a workshop that allowed participants to experience the materials and techniques used to make Nihon-ga (Japanese-style paintings).

The exhibition subsequently traveled to the University Art Museum, Tokyo University of the Arts, where it was held from August 3 to September 29, 2019.

(HIRAI Yoshinobu)

関連プログラムとして日本博の助成を受けて、1階ロビーに大乗寺襖絵のVRコーナーを設置し、会期中に日本画の素材や技法に触れることができるワークショップを開催した。

なお本展は、当館に先立ち8月3日から9月29日まで東京藝術大学大学美術館にて開催された。

（平井啓修）

カタログ ※一般書籍として刊行
Exhibition Catalogue

日本語、英語：29.0×22.5cm、256頁
図版 カラー124点; 参考図版 カラー1点

収録論文等
・特集編
「歴史的背景を見渡す／美術的背景を学ぶ」黒田正子
「円山・四条派主要画家の系譜」
「円山・四条派年表」
「江戸時代・京都、四条界隈再現地図」地図作成／善養寺ススム
「応挙寺・大乗寺訪問」文章／黒田正子　写真／三好和義
・図録編
「円山・四条派の系譜」平井啓修
「円山・四条派―その概念形成と歴史的意義―」古田亮
「作品解説」(図版ページに掲載)平井啓修、小倉実子、古田亮
「系譜図」
「画家解説」

編集：平井啓修(京都国立近代美術館)、古田亮(東京藝術大学大学美術館)、朝日新聞社、中塚康(求龍堂)、清水恭子(求龍堂)、鹿山芳明(求龍堂)
執筆：平井啓修、小倉実子(京都国立近代美術館)、古田亮、黒田正子
翻訳：マーサ・マクリントク
デザイン：神田宇樹
ロゴデザイン：坂本佳子(大向デザイン事務所)
特集 大乗寺写真：三好和義
イラスト地図：善養寺ススム(入谷のわき)
地図監修：伊東宗裕
印刷・製本：岡村印刷工業株式会社
発行：株式会社求龍堂

新聞雑誌等関係記事
Articles

【新聞記事】
朝日：6月11日（夕）「円山・四条派 確かな表現の系譜 東京・京都で大規模展企画」（大西若人）
京都：10月3日「四条派の祖《呉春》展相次ぐ」（内田孝）
朝日：10月23日「時代が愛したリアリズム 風を読んだアーティスト」（田中ゑれ奈）
京都：10月31日「受け継いだ円山・四条派 より本物らしく」（住吉哲志）
京都：11月2日「応挙とその影響一堂に 近美できょうから」（住吉哲志／撮影・船越正宏）
朝日：11月2日「応挙の襖絵 きょうから 京都」（田中ゑれ奈）
毎日：11月9日（夕）「日本美術ブームの今こそ！ 王道に触れる企画 応挙 写実の革新者 近代京都画壇の祖」（三輪晴美）
朝日：11月12日(夕)「空間を描いた寺宝 廊下越し 自然と一体」(田中ゑれ奈）
毎日：11月25日「応挙から近代京都画壇へ 近代美術館 写生画の展開 系統、横断的に」（澤木政輝）
朝日：11月25日「重要文化財 円山応挙《写生図巻(甲巻)》」
朝日：11月26日（夕）「上村松園《楚蓮香之図》（部分）1924年ごろ 京都国立近代美術館蔵」
朝日：11月27日(夕)「竹内栖鳳《春暖》1930年 愛知県美術館蔵（木村定三コレクション）」
朝日：11月28日(夕)「森寛斎ほか《魚介尽くし》（部分）1872年から73年ごろ、個人蔵」
日経：11月29日(夕)「美と遊ぶ《円山応挙から近代京都画壇へ》展 京都国立近代美術館 応挙遺伝子 いかに引き継ぐ」（正木利和）
朝日：11月29日(夕)「大乗寺文書(円山派名簿、部分)1794～95年ごろ、兵庫・大乗寺蔵」
京都：11月30日ミュージアム「《円山応挙から近代京都画壇へ》展 技法磨き リアルさ追求」（住吉哲志）
京都：11月30日（夕）「京都画壇×産業界。京近美《円山応挙から近代京都画壇へ》並木誠士・京都工繊大教授が講演 工芸下絵 描いた日本画家」（林家祐子）
読売：12月2日（夕）「緻密な応挙画 大迫力 京都で展覧会」（藤本幸大）
朝日：12月11日「応挙展 来場者5万人超え」
京都：12月11日「《応挙》展 5万人突破 近美、伏見の女性に記念品」（前芝直介）
毎日:1月11日 トレンド観測「文化財とVR 本物への理解深める」(清水有香）

毎日：2020年11月8日 活字を愉しむ 京都読書之森「京都の美術 250年の夢」（南陽子）

【雑誌記事その他】

京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 505（11-12月号）「円山応挙から近代京都画壇へ」展の気になる作品 魚介尽くし」（五十嵐公一）

京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 506（1-2月号）「原点へ回帰する京都近美」（藤本真名美）

京都国立近代美術館 友の会ニュース 2019年9月号no. 69「円山応挙から近代京都画壇へ」

和楽2019年8・9月No. 186「ホントに墨だけ? Zoom in 今月の名画 松に孔雀図」Column5「Zoom out 今月の名画《松に孔雀図》〈円山応挙〉発、〈竹内栖鳳〉へ。京都の美意識は続く」

美術の窓2019年8月No. 431 美術館で涼をとる?この夏必見!「水」のアート「保津川の渓谷美」

美術の窓2019年9月No. 432「円山応挙から近代京都画壇へ 円山・四条派 画家たちの系譜を辿る」（編集部）

芸術新潮2019年9月号「特集 応挙にはじまる。〈日本画〉誕生!」（解説：平井啓修／古田亮）

美術展ぴあ2019ぴあMOOK 絶対に観たい!美術展156　2019年9月「《写生画》を極めた天才絵師たちのすべて」

関塾タイムス2019年11月Vol. 508「わくわく全国学び体験ガイド 第105回日本美術家と出会う編～近現代の作品を知ろう　京都国立近代美術館」

Colon 2019年10月号Vol. 83「すべては応挙にはじまる!?／かわいいがいっぱい美人画の系譜も応挙からはじまる」（インタビュー：平井啓修／取材・文：佐々木歩、撮影：佐藤祐樹）

文教速報2019年11月20日 第8775号「京近美《円山応挙から近代京都画壇へ》展が開幕」

文教ニュース2019年12月16日 第2577号「京都国立近代美術館《円山応挙から近代京都画壇へ》5万人」

芦屋倶楽部 2019年10・11・12月号 Vol. 438「近世から近代へ 画家たちの系譜をたどる円山・四条派の大展覧会 すべては応挙にはじまる。命を描く。物語を紡ぐ。」

My NARA 2020年3月518号「静穏な岡崎の地に近代アートの拠点 京都国立近代美術館」

435　特別展

記憶と空間の造形
イタリア現代陶芸の巨匠 ニーノ・カルーソ

Forms of Memory and Space:
Nino Caruso, Giant of Contemporary Italian Ceramics

主催：京都国立近代美術館
会期：2020年1月4日(土)～ 2月16日(日)（38日間）
入場者数：10,378人(一日平均：273人)

Organizer: The National Museum of Modern Art, Kyoto
Dates: Saturday, January 4- Sunday, February 16, 2020
Visitors: 10,378(273 per day)

ポスターデザイン：倉澤洋輝

イタリア現代陶芸の巨匠であるニーノ・カルーソの偉業を代表作ならびに数々のスケッチなどの資料、計113件を通じて紹介する日本初の回顧展。

カルーソは、神話性、象徴性を制作におけるテーマの一つとしている。初期は、自身の故郷の記憶と結びつけた装飾的な器物を制作していたが、次第に古代ローマやギリシャ、エトルリアの遺跡等を思わせる壁面や柱、門などの形態制作を通じて、古代と現代を結ぶ空間の構築へと向かっていく。こうしたカルーソの表現は、世界中で高い評価を獲得し、現代陶芸界において確固たる地位を築いた。

本展では、ニーノ・カルーソの作品を、「アルカイック・シリーズ」「鉄の彫刻」「デザイン」「モジュラー彫刻」「夢の館」の5章で紹介した。特にカルーソのモジュラー彫刻は、いくつものパーツの組み合わせで構成されるものであり、その構成方法によって作品の意味も大きく変わる。実際にカルーソは展示場所やテーマに合わせて自由にパーツを組み替えているように、陶磁で作品を作るということについて「焼き上げる」ことを最終目的とせずに、モノと空間との関係の中でその在り方を捉えていた。そこで本展では、当館の回廊式の展示空間の中で、観覧者が展示室の角を曲がるごとに目の前に広がる空間の質が変化するように作品を設置するなど、カルーソの世界を視覚的・感覚的に体感できるようにした。

本展は、2月27日から4月3日まで岐阜県現代陶芸美術館でも開催された。

（大長智広）

This retrospective, the first ever held in Japan, introduced the great achievements of Nino Caruso, an Italian master of contemporary ceramics, through a total of 113 pieces, including both major works, and numerous sketches and other materials.

Mythology and symbolism are among the themes that Caruso dealt with in his work. Although early in his career Caruso produced decorative vessels related to memories of his native Sicily, he gradually turned his attention to walls, columns, and gates, which were reminiscent of Roman, Greek, and Etruscan ruins, as a way of constructing spaces that combined ancient and contemporary elements.

The exhibition was divided into five sections: “The Archaic Series,” “Iron Sculptures,” “Design,” “Modular Sculptures,” and “Memories of a Dream.” Caruso’s modular sculptures are notable for a combination of several parts, and the meaning of the works change significantly depending on the way in which they are structured. Caruso freely reconfiguring the parts according to the exhibition venue or theme in order to capture a state that existed within the relationship between things and spaces, rather than focusing on firing as the ultimate goal of a ceramic work. As a result, the corridor-style exhibition was designed to enable viewers to experience the artist’s world both visually and sensorily. For example, the works were installed in such a way that every time viewers turned the corner of a gallery, the quality of the space that spread out before them changed.

After the exhibition concluded, it traveled to the Museum of Modern Ceramic Art, Gifu, where it was held from February 27 to April 3.

(DAICHO Tomohiro)

カタログ
Exhibition Catalogue

日本語、英語：25×19.2cm、261頁
図版 カラー113点; 参考図版 カラー8点、モノクロ45点

収録論文等

「陶磁の宇宙」クラウディア・カザーリ（ファエンツァ国際陶芸美術館長）
"The space of ceramics" Claudia Casali(MIC Director)
「対話、創造性、忍耐　優れた創作活動を可能にした三要因」アンドレア・カルーソ
"Dialogue, creativity and perseverance: three tools for a brilliant career." Andrea Caruso
「地中海の陶芸家」青柳正規（元文化庁長官、東京大学名誉教授）
"A Mediterranean Ceramicist" Aoyagi Masanori(Former Director General, Agency for the Cultural Affairs / Professor Emeritus, Tokyo University)
「ニーノ・カルーソと日本」大長智広（京都国立近代美術館研究員）
"Nino Caruso and Japan" Daicho Tomohiro(Curator, The National Museum of Modern Art, Kyoto)
「ニーノ・カルーソと国際陶磁器展美濃」花井素子（岐阜県現代陶芸美術館学芸員）
"Nino Caruso and the International Ceramics Competition Mino, Japan" Motoko Hanai(Curator, Museum of Modern Ceramic Art, Gifu)
「ニーノ・カルーソ略歴」ステファノ・カルーソ、アンドレア・カルーソ・編
Chronology by Andrea and Stefano Caruso

編集：京都国立近代美術館（大長智広、渡邉くらら、福家梨紗）
翻訳：アンドレア・カルーソ＆エリザベル・ウィル、クリストファー・スティヴンズ、大長智広
デザイン：倉澤羊輝
印刷：能登印刷株式会社
発行：京都国立近代美術館

新聞雑誌等関係記事
Articles

【新聞記事】

産経：1月31日（夕）「ニーノ・カルーソ展 京都国立近代美術館 古代と現代結ぶ空間建築」（T生）
京都：2月1日「ニーノ・カルーソ展　古代の記憶 現代に結ぶ」（前芝直介）
朝日：2月4日（夕）「陶芸界も驚いた 斬新な手法 ニーノ・カルーソ回顧展」（田中ゑれ奈）
毎日：2月5日（夕）「古代と現代結ぶ表現への意思」（清水有香）

【雑誌記事その他】

京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 506（1-2月号）「イタリア陶芸の一側面」（クラウディア・カザーリ）
京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 506（1-2月号）「ニーノ・カルーソとの想い出」（平井智一）
京都国立近代美術館 友の会ニュース 2019年11月号no. 70「記憶と空間の造形 イタリア現代陶芸の巨匠 ニーノ・カルーソ」
京都国立近代美術館 友の会ニュース 2020年1月号no. 71「記憶と空間の造形 イタリア現代陶芸の巨匠 ニーノ・カルーソ」
文教速報2020年1月29日第8800号「イタリア現代陶芸の巨匠 京近美でニーノ・カルーソ展」
陶業時報2020年1月1日 第1884号「ニーノ・カルーソ回顧展 京都国立近代美術館」
京都画廊連合会ニュース2020年1月号No.-537「記憶と空間の造形 イタリア原題陶芸の巨匠　ニーノ・カルーソ」
千里タイムズ2020年1月10日第2103号「京都国立近代美術館《イタリア現代陶芸の巨匠 記憶と空間の造形 ニーノ・カルーソ》」
陶説2020年2月 No. 802「記憶と空間の造形 イタリア現代陶芸の巨匠 ニーノ・カルーソ」（大長智広）
京都画廊連合会ニュース2020年2月号No.-538「京近美コレクション室より」
炎芸術2020春No. 141 展覧会スポットライト「記憶と空間の造形 イタリア現代陶芸の巨匠 ニーノ・カルーソ」（大長智広）
陶説2020年3月 No. 803「記憶と空間の造形 イタリア現代陶芸の巨匠 ニーノ・カルーソ」（小吹隆文）
La Ceramica Moderna & Antica, anno XLI, n. 307-308, Gen/Giu 2020 "Nino Caruso (1928-2017) in Giappone / Nino Caruso(1928-2017) in Japan Una Grande Retrspettiva Itinerante Dedicata Al Maestro Italiano, Con Cento Opere A Kyoto E Mino" (Claudia Casali)

会場風景（撮影：河田憲政）

新収蔵品
New Acquisitions

平成31／令和元年度に購入した美術作品は、日本画10点、油彩1点、陶芸16点、金工2点、漆工7点、木工1点、染織16点、その他3点、資料2点であり、寄贈を受けた美術作品は、日本画20点、素描1点、陶芸5点、漆工1点、染織32点、資料5点であった。同年度に種別替えした美術作品は、資料1点であった。

この結果、平成31／令和元年度末までの本館収蔵作品の累計は、日本画1,134点、油彩726点、水彩347点、素描1,314点、版画3,280点、彫刻113点、陶芸1,690点、金工152点、漆工145点、木工54点、竹工7点、ガラス113点、染織698点、人形2点、ジュエリー101点、書83点、写真1,959点、その他713点、資料2,267点の総計15,258点となった。

The National Museum of Modern Art, Kyoto acquired the following works in the fiscal year of 2019 (April 1, 2019–March 31, 2020). Purchases: 10 Nihonga, or Japanese-style paintings, 1 oil painting, 16 ceramics, 2 metal works, 7 lacquer works, 1 wood work, 16 textiles, 3 Non-Category works and 2 reference materials. Donations: 20 Nihonga, or Japanese-style paintings, 1 drawing, 5 ceramics, 1 lacquer work, 32 textiles, 5 reference materials. Reclassification of object type: 1 reference material.

The total number of works in the collection of the Museum as of the end of the fiscal year of 2019 is 15,258; 1,134 Japanese-style paintings, 726 oil paintings, 347 watercolors, 1,314 drawings, 3,280 prints, 113 sculptures, 1,690 ceramics, 152 metal works, 145 lacquer works, 54 wood works, 7 bamboo works, 113 glass works, 698 textiles, 2 dolls, 101 jewelry works, 83 calligraphies, 1,959 photographs, 713 Non-Category works and 2,627 reference materials.

新収蔵品目録
List of New Acquisitions

日本画 Japanese-style paintings

入江波光／立雛／1947

岩倉壽／芭蕉／1958

岩倉壽／午後／1966

岩倉壽／ルイニ「黄金のクッションの遊戯」（部分）模写／1973

岩倉壽／湿原冬日／1984

岩倉壽／六月風景／1996

岩倉壽／北の奥池／2008

岩倉壽／鳥くる庭／2009

岩倉壽／白い広場／2010

岩倉壽／筍／2012

岩倉壽／鳥の棚／2013

岩倉壽／静日／2014

岩倉壽／白暮／2014

岩倉壽／冬／2017

岩倉壽／鳥来るところ／2017

岩倉壽／北東静物／n.d.

岩倉壽／沼／n.d.

岩倉壽／窓辺／n.d.

岩倉壽／エスキース（黒い柿）／n.d.

岩倉壽／エスキース（冬の木）／n.d.

岩倉壽／エスキース（鳥と少年）／n.d.

岩倉壽／エスキース（くわい・2）／n.d.

岩倉壽／エスキース（レモン）／n.d.

岩倉壽／エスキース（レモン）／n.d.

岩倉壽／エスキース（鳥を抱く少年）／n.d.

岩倉壽／エスキース（静物）／n.d.

岩倉壽／エスキース（洋梨）／n.d.

岩倉壽／エスキース（十字架の木）／n.d.

岩倉壽／エスキース（栗林）／n.d.

岩倉壽／エスキース（卓上）／n.d.

岩倉壽／エスキース（果実）／n.d.

岩倉壽／エスキース（化石・1）／n.d.

岩倉壽／エスキース（化石・2）／n.d.

岩倉壽／エスキース（化石・3）／n.d.

岩倉壽／エスキース（化石・4「月」）／n.d.

岩倉壽／エスキース（牡丹）／n.d.

岩倉壽／エスキース（海辺のテラス）／n.d.

岩倉壽／エスキース（逆光・1）／n.d.

岩倉壽／エスキース（逆光・2）／n.d.

岩倉壽／エスキース（夜桜）／n.d.

岩倉壽／エスキース（蕪）／n.d.

岩倉壽／エスキース（レモン）／n.d.

岩倉壽／エスキース（比叡山）／n.d.

岩倉壽／エスキース（雪・一月二日）／n.d.

岩倉壽／エスキース（卓上のグラス）／n.d.

岩倉壽／エスキース（月明）／n.d.

岡本神草／花見小路の春宵（未成）／1916

岡本神草／五女遊戯／1925

榊原紫峰／蓮池白鷺／c.1926

野長瀬晩花／遅日／c.1920

林司馬／駿牛図模写／n.d.

速水御舟／「笠置所見」小下図／1917

速水御舟／「洛外六題のうち梅ケ畑」小下図／1917

広田多津／舞妓／1960

水谷浩象／春光／1927

山元春挙／空磧帰牛之圖／1897

山元春挙／夏の海邊之圖／1899

油彩　Oil paintings

須田国太郎／唐招提寺礼堂／1933

素描　Drawings

岡本神草／梨花写生／c.1916

陶芸　Ceramics

加藤土師萌／萌葱金襴手蓋付飾壺／1968

熊倉順吉／魔法使い／1976

熊倉順吉／ファンキーな光景／1980

熊倉順吉／バクダン／c.1980

熊倉順吉／緑釉ブーツ／c.1968

栗木達介／白と銀の作品／1973

重松あゆみ／Listen-only Line／2014

林康夫／雲／1948

林康夫／Untitled／1950

林康夫／階段のある像／1974

林康夫／Focus 84-9／1984

平井智／広場から'90／1990

平井智／女性像／1983

平井智／陶片－追憶 012／1999-2016

三島喜美代／コミックブック 2017（開いた本 伏せた本 半開き本 積み上げ本）／2017

三島喜美代／かご 2017（缶かご 2017 ゴミかご 2017）／2017

三島喜美代／新聞 2017・2018（新聞積み上げ 2017（セット）　新聞積み上げ 2017（紐かけ）　新／2017-18

三島喜美代／びら 2017／2017

三輪龍氣生（龍作、十二／M氏の異常食欲／1974

十五代 樂吉左衛門／轆轤乃茶碗 万葉乃譜 梅花 遺有雪乎／2017

十五代 樂吉左衛門／轆轤乃茶碗 万葉乃譜 天海丹／2017

金工　Metal works

二橋美衡／花鳥文様真鍮製手筥／1929

山脇洋二／短冊箱／1940

漆工　Lacquer works

黒田辰秋／朱漆宝結文円卓／1936

望月重延（玉船）／爽／1987

望月重延（玉船）／こだま／1993

望月重延（玉船）／香る風／2001

望月重延（玉船）／春熙／2012

望月重延（玉船）／大空へ／2012

望月重延（玉船）／萌芽／2012

望月重延（玉船）／樹響／2015

木工　Wood works

神坂雪佳／花山院好桐色紙短冊箱／大正末頃

染織　Textiles

麻田脩二／凝A／1964

麻田脩二／祇園祭六角町六連想（風紋図六角文様）／2013

麻田脩二／祇園祭六角町六連想（風紋図洛中童歌文様）／2013

麻田脩二／祇園祭六角町六連想（風紋団子重ね文様）／2013

麻田脩二／祇園祭六角町六連想（風紋華重ね文様）／2013

麻田脩二／祇園祭六角町六連想（風紋絵空事之図）／2013

麻田脩二／祇園祭六角町六連想（風紋現世之図）／2013

小名木陽一／人工心臓／1975

小名木陽一／自立の試み—white R／1981-2019

小名木陽一／自立の試み—white 2W／1981-2019

小名木陽一／黄色い円盤／2008

兼先恵子／Carnival No.2／1985

072河田孝郎／岬の家／1983

河田孝郎／訪問着　手紙／2018

久保田繁雄／舞楽の響き I／1977

久保田繁雄／笑う鳥 I／1994

久保田繁雄／The Recurrence I／1994

久保田繁雄／赤いかたち　II／2014

小林尚美／Cuebic Harmony／1990

小林尚美／WORK 98 #105／1998

小林尚美／DISTANCE／1999

小林尚美／Cosmos／2000

小林尚美／KAKU-2000 #101／2000

小林尚美／KAKU-2000 #102／2000

小林尚美／YURAGI #01／2010

小林尚美／YURAGI #02／2010

小林尚美／色即是空／2019

中堂憲一／虚影／1978

中堂憲一／黒いのら猫／1979

鳥羽美花／辿りついた場所　I／2013

鳥羽美花／辿りついた場所　II／2013

鳥羽美花／辿りついた場所　III／2013

内藤英治／岸辺／1982

内藤英治／活山／1989

中井貞次／藍の空間／1969

中井貞次／樹座／1999

中井貞次／追想／2014

長尾紀壽／湯けむる裸祭—神木争奪／1994

長尾紀壽／飾衣装「ウージ畑」／2001

長尾紀壽／沖縄の風「ウージ畑」／2001

長尾紀壽／幽（川面のさわふじ）／2016

野田睦美／常寂光土／2018

福本潮子／霞の茶室／1990
撮影：後 勝彦（Ushiro Katsuhiko）

村上良子／森に懸る径／1989

八幡はるみ／フィトテラピー／2017

八幡はるみ／フィトテラピー II／2019

八幡はるみ／フィトテラピー III／2019

八幡はるみ／パズル／2019

吉村正郎／スタンドアップクロス／1977

吉村正郎／パッキングクロス／1978

吉村正郎／フレームクロスA. B. C／1985

マリアン・ヘルク／Velvet City／1991

マリアン・ヘルク／To find emptiness／2009

ニコラ・ヘンリー／Cuckoo／1988

ニコラ・ヘンリー／Crow, Descent／1990

その他　Non-Category works

加守田章二／墨絵「下館出土弥生式大盃」／1967

柴田是真ほか／福禄封候図飾棚／1883

ピピロッティ・リスト／永遠は終わった、永遠はあらゆる場所に（Ever Is Over All）／1997

資料　Reference materials

岡本神草／浮世絵模写「天窓之底」／1914

岡本神草／中国人物模写／1915

岡本神草／「浮世絵能栞」／n.d.

岡本神草旧蔵図版／n.d.

河井寛次郎／作品図案　3点／c.1924

河井寛次郎／作品配置図面／c.1924

富岡鉄斎／粉本　魚籃観音像／n.d.

種別替作品［図書→資料］　Reclassification of object type

『パン』（1895年第1巻、1895年第2巻、1896年第1巻、1896年第2巻、1897年第1巻、1897年第2巻、1898年第1巻、1898年第2巻、1899年第1巻、1899年第2巻）

新収蔵品目録
New Acquisitions List

日本画

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法／形状	寸法〔cm〕	購入・寄贈
入江波光	(1887-1948)	立雛	1947	紙本着色／軸	93.7 × 36.0	村上伸氏寄贈
岩倉壽	(1936-2018)	芭蕉	1958	紙本着色／まくり	222.5 × 160.5	岩倉幸児氏寄贈
岩倉壽	(1936-2018)	午後	1966	紙本着色／額	148.0 × 208.5	岩倉幸児氏寄贈
岩倉壽	(1936-2018)	ルイニ「黄金のクッションの遊戯」(部分)模写	1973	紙本着色／額	41.3 × 33.9	岩倉幸児氏寄贈
岩倉壽	(1936-2018)	湿原冬日	1984	紙本着色／額	165.0 × 210.0	岩倉幸児氏寄贈
岩倉壽	(1936-2018)	六月風景	1996	紙本着色／額	165.0 × 210.0	岩倉幸児氏寄贈
岩倉壽	(1936-2018)	北の奥池	2008	紙本着色／額	165.0 × 210.0	岩倉幸児氏寄贈
岩倉壽	(1936-2018)	鳥くる庭	2009	紙本着色／額	71.7 × 59.7	岩倉幸児氏寄贈
岩倉壽	(1936-2018)	白い広場	2010	紙本着色／額	72.0 × 52.0	岩倉幸児氏寄贈
岩倉壽	(1936-2018)	筍	2012	紙本着色／額	64.5 × 49.0	岩倉幸児氏寄贈
岩倉壽	(1936-2018)	鳥の棚	2013	紙本着色／額	71.8 × 59.5	岩倉幸児氏寄贈
岩倉壽	(1936-2018)	静日	2014	紙本着色／額	71.0 × 99.0	岩倉幸児氏寄贈
岩倉壽	(1936-2018)	白暮	2014	紙本着色／額	165.0 × 210.0	岩倉幸児氏寄贈
岩倉壽	(1936-2018)	冬	2017	紙本着色／額	78.7 × 115.3	岩倉幸児氏寄贈
岩倉壽	(1936-2018)	鳥来るところ	2017	紙本着色／額	128.7 × 160.5	岩倉幸児氏寄贈
岩倉壽	(1936-2018)	北東静物	n.d.	紙本着色／額	89.0 × 64.0	岩倉幸児氏寄贈
岩倉壽	(1936-2018)	沼	n.d.	紙本着色／額	98.6 × 71.4	岩倉幸児氏寄贈
岩倉壽	(1936-2018)	窓辺	n.d.	紙本着色／額	71.0 × 99.5	岩倉幸児氏寄贈
岩倉壽	(1936-2018)	エスキース	n.d.	紙本着色／額(28面)	9.4 × 18.0 ほか	岩倉幸児氏寄贈
岡本神草	(1894-1933)	花見小路の春宵(未成)	1916	絹本着色／額	173.0 × 169.4	購入
岡本神草	(1894-1933)	五女遊戯	1925	絹本着色／四曲一隻屏風	156.3 × 233.8	購入
榊原紫峰	(1887-1971)	蓮池白鷺	c.1926	絹本着色／軸(双幅)	(各)130.7 × 40.4	購入
野長瀬晩花	(1889-1964)	遅日	c.1920	絹本着色／軸	130.6 × 42.1	購入
林司馬	(1906-1985)	駿牛図模写	n.d.	紙本着色／軸	27.3 × 31.9	購入
速水御舟	(1894-1935)	「笠置所見」小下図	1917	紙本淡彩／軸	20.5 × 8.2	購入
速水御舟	(1894-1935)	「洛外六題のうち梅ケ畑」小下図	1917	紙本着色／軸	13.4 × 62.0	購入
広田多津	(1904-1990)	舞妓	1960	紙本着色／二曲一隻屏風	167.9 × 135.6	購入
水谷浩象	(1904-1993)	春光	1927	紙本着色／額	87.9 × 119.5	水谷雅子氏寄贈
山元春挙	(1871-1933)	空磧帰牛之圖	1897	絹本墨画淡彩／軸	140.4 × 71.6	購入
山元春挙	(1871-1933)	夏の海邊之圖	1899	絹本墨画淡彩／軸	144.5 × 87.1	購入

油彩

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法／形状	寸法〔cm〕	購入・寄贈
須田国太郎	(1891-1961)	唐招提寺礼堂	1933	油彩、麻布／額	72.5 × 116.5	購入

素描

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法／形状	寸法〔cm〕	購入・寄贈
岡本神草	(1894-1933)	梨花写生	c.1916	紙、鉛筆、淡彩／まくり	39.2 × 54.8	株式会社星野画廊 代表取締役 星野桂三氏寄贈

陶芸

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法／形状	寸法〔cm〕	購入・寄贈
加藤土師萌	(1900-1968)	萌葱金襴手蓋付飾壺	1968	磁器	77.5 × 77.5 × 155.0(h)	購入
熊倉順吉	(1920-1985)	魔法使い	1976	陶器、釉薬	43.3 × 30.5 × 18.5	濱田知子氏寄贈
熊倉順吉	(1920-1985)	ファンキーな光景	1980	陶器、釉薬	11.0 × 28.5 × 39.5	濱田知子氏寄贈
熊倉順吉	(1920-1985)	バクダン	c.1980	陶器、釉薬	22.5 × 22.0 × 25.5(h)	濱田知子氏寄贈
熊倉順吉	(1920-1985)	緑釉ブーツ	c.1968	陶器、釉薬	23.0 × 10.8 × 23.0(h)	濱田知子氏寄贈
栗木達介	(1943-2013)	白と銀の作品	1973	陶器	80.0 × 60.0 × 70.0(h)	購入
重松あゆみ	(1958-)	Listen-only Line	2014	陶器、化粧土	39.0 × 24.0 × 56.0(h)	林文江氏寄贈
林康夫	(1928-)	雲	1948	陶器、釉薬	33.0 × 27.5 × 33.7(h)	購入
林康夫	(1928-)	Untitled	1950	陶器、釉薬	16.5 × 22.0 × 21.3(h)	購入
林康夫	(1928-)	階段のある像	1974	陶器、釉薬、化粧	40.5 × 26.0 ×× 45.3(h)	購入
林康夫	(1928-)	Focus 84-9	1984	陶器、釉薬、化粧、象嵌	44.1 × 28.8 × 47.5(h)	購入
平井智	(1947-)	広場から'90	1990	陶器、化粧、釉薬	38.0 × 15.0 × 75.0(h)	購入
平井智	(1947-)	女性像	1983	陶器、化粧、釉薬	54.0 × 26.0 × 55.0(h)	購入
平井智	(1947-)	陶片―追憶 012	1999-2016	陶器、化粧、釉薬	74.0 × 15.5 × 55.5(h)	購入
三島喜美代	(1932-)	コミックブック 2017(開いた本 伏せた本 半開き本 積み上げ本)	2017	陶器、転写／インスタレーション	可変サイズ(《コミックブック 2017》1件:開いた本 1冊、伏せた本 2冊、半開き本 2冊、積み上げ本 30冊)	購入
三島喜美代	(1932-)	かご 2017(缶かご 2017 ゴミかご 2017)	2017	陶器、転写／インスタレーション	可変サイズ(1件100個入り)	購入
三島喜美代	(1932-)	新聞 2017・2018(新聞積み上げ 2017(セット) 新聞積み上げ 2017(紐かけ) 新聞パッケージ 2017 新聞パッケージ 2018)	2017-18	陶器、転写／インスタレーション	可変サイズ(《新聞 2017・2018》1件:新聞パッケージ 2017 7個、新聞パッケージ 2018 3個)	購入
三島喜美代	(1932-)	びら 2017	2017	陶器、転写／インスタレーション	可変サイズ(1件50枚)	購入
三輪龍氣生(龍作、十二代休雪)	(1940-)	M氏の異常食欲	1974	陶器	77.5 × 77.5 × 60.0(h)	購入
十五代樂吉左衛門	(1949-)	轆轤乃茶碗 万葉乃譜 梅花 遺有雪乎	2017	陶器	15.5 × 14.6 × 8.4(h)	購入
十五代樂吉左衛門	(1949-)	轆轤乃茶碗 万葉乃譜 天海丹	2017	陶器	17.1 × 15.1 × 8.7(h)	購入

金工

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法／形状	寸法〔cm〕	購入・寄贈
二橋美衡	(1896-1977)	花鳥文様真鍮製手筥	1929	真鍮	29.4 × 40.7 × 9.2(h)	購入
山脇洋二	(1907-1982)	短冊箱	1940	鍛造、彫金、銀、金、桐	8.5 × 41.0 × 5.0(h)	購入

漆工

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法／形状	寸法〔cm〕	購入・寄贈
黒田辰秋	(1904-1982)	朱漆宝結文円卓	1936	木、漆	84.5 × 84.5 × 30.0(h)	黒田百合子氏寄贈
望月重延(玉船)	(1943-)	爽	1987	乾漆	28.7 × 25.0 × 50.7	購入
望月重延(玉船)	(1943-)	こだま	1993	乾漆	42.7 × 32.5 × 48.5	購入
望月重延(玉船)	(1943-)	香る風	2001	乾漆	36.0 × 37.0 × 45.1	購入
望月重延(玉船)	(1943-)	春熙	2012	乾漆	44.0 × 18.0 × 42.5	購入
望月重延(玉船)	(1943-)	大空へ	2012	乾漆	39.0 × 27.0 × 24.0	購入
望月重延(玉船)	(1943-)	萌芽	2012	乾漆	25.0 × 26.0 × 47.5(h)	購入
望月重延(玉船)	(1943-)	樹響	2015	乾漆	46.0 × 32.0 × 55.0	購入

木工

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法／形状	寸法〔cm〕	購入・寄贈
神坂雪佳	(1866-1942)	花山院好桐色紙短冊箱	大正末頃	桐製彩色	色紙箱:29.0×25.5×7.5(h) 短冊箱:8.9 × 39.1 × 3.0(h)	購入

染織

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法／形状	寸法〔cm〕	購入・寄贈
麻田脩二	(1938-)	凝A	1964	型染／パネル	152.0 × 108.0	作者寄贈
麻田脩二	(1938-)	祇園祭六角町六連想(風紋図六角文様、風紋図洛中童歌文様、風紋団子重ね文様、風紋華重ね文様、風紋絵空事之図、風紋現世之図)	2013	型染／パネル(6点)	風紋図六角文様:220.0 × 220.0(4枚パネル) 風紋図洛中童歌文様:220.0 × 220.0(4枚パネル) 風紋団子重ね文様:220.0 × 187.0(2枚パネル) 風紋華重ね文様:220.0 × 220.0(4枚パネル) 風紋絵空事之図:160.0 × 220.0(2枚パネル) 風紋現世之図:167.0 × 246.0(3枚パネル)	作者寄贈

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法／形状	寸法〔cm〕	購入・寄贈
小名木陽一	(1931-)	人工心臓	1975	木綿、立体織	50.0 × 50.0 × 60.0(h)	作者寄贈
小名木陽一	(1931-)	自立の試み—white R	1981-2019	ポリエステル、ポリプロピレン、立体織	90.0 × 90.0 × 200.0(h)	購入
小名木陽一	(1931-)	自立の試み—white 2W	1981-2019	ポリエステル、ポリプロピレン、二重織	90.0 × 90.0 × 200.0(h)	購入
小名木陽一	(1931-)	黄色い円盤	2008	ジュート麻、羊毛、綴織	200.0 × 200.0	購入
兼先恵子	(1951-)	Carnival No.2	1985	絹、酸性染料、ステンシル、糊型染、縫取り	180.0 × 134.0	購入
河田孝郎	(1941-)	岬の家	1983	シルクウール、蝋防染、糊防染、植物染料、酸性染料	160.0 × 400.0	購入
河田孝郎	(1941-)	訪問着　手紙	2018	絹、糊防染、酸性染料／着物	165.0 × 137.0	購入
久保田繁雄	(1947-)	舞楽の響き I	1977	大麻、ラミー麻、平織	183.0 × 15.0 × 175.0(h)	作者寄贈
久保田繁雄	(1947-)	笑う鳥 I	1994	ラミー麻、サイザル麻、平織	320.0 × 28.0 × 176.0(h)	作者寄贈
久保田繁雄	(1947-)	The Recurrence I	1994	ラミー麻、サイザル麻、平織	600.0 × 20.0 × 220.0(h)	作者寄贈
久保田繁雄	(1947-)	赤いかたち II	2014	ナイロン、大麻、ラミー麻、アルミパイプ、塩化ビニール板、平織、縫い	190.0 × 190.0 × 230.0(h)	購入
小林尚美	(1945-)	Cuebic Harmony	1990	こより糸、和紙	31.5 × 19.0 × 17.0	作者寄贈
小林尚美	(1945-)	WORK 98 #105	1998	こより糸、綿糸、墨	370.0 × 110.0 × 30.0	作者寄贈
小林尚美	(1945-)	DISTANCE	1999	こより、綿糸	30.5 × 191.5	作者寄贈
小林尚美	(1945-)	Cosmos	2000	和紙	200.0 × 200.0 × 15.0(h)	購入
小林尚美	(1945-)	KAKU-2000 #101	2000	和紙、こより糸、墨／額	46.0 × 36.0 × 5.0	作者寄贈
小林尚美	(1945-)	KAKU-2000 #102	2000	和紙、こより糸、墨／額	46.0 × 36.0 × 5.0	作者寄贈
小林尚美	(1945-)	YURAGI #01	2010	絹、綿、平織／額	27.0 × 22.3	作者寄贈
小林尚美	(1945-)	YURAGI #02	2010	絹、綿、平織／額	27.0 × 22.3	作者寄贈
小林尚美	(1945-)	色即是空	2019	綿、絹、二重織	(各)90.4 × 40.0	作者寄贈
中堂憲一	(1921-1991)	虚影	1978	型染／二曲一隻屏風	152.0(h) × 143.2	中堂祐保氏寄贈
中堂憲一	(1921-1991)	黒いのら猫	1979	型染／二曲一隻屏風	154.4(h) × 112.6	中堂祐保氏寄贈
鳥羽美花	(1961-)	辿りついた場所　I、II、III	2013	白山紬、酸性染料、型染／四曲三隻屏風	(各)230.0(h) × 300.0	購入
内藤英治	(1946-)	岸辺	1982	型染／二曲一隻屏風	180.0 × 170.0	作者寄贈
内藤英治	(1946-)	活山	1989	型染／二曲一隻屏風	184.0 × 172.0	作者寄贈
中井貞次	(1932-)	藍の空間	1969	麻、藍染／額	152.0 × 120.0	作者寄贈
中井貞次	(1932-)	樹座	1999	麻、藍、蝋染／二曲一隻屏風	172.0 × 172.0	作者寄贈
中井貞次	(1932-)	追想	2014	麻、蝋染／二曲一隻屏風	131.0 × 150.0	作者寄贈
長尾紀壽	(1940-)	湯けむる裸祭—神木争奪	1994	和紙、糊防染、墨、顔料、ステンシル、型染／パネル	120.0 × 240.0	作者寄贈
長尾紀壽	(1940-)	飾衣装「ウージ畑」	2001	絹、顔料、植物染料、糊防染、型染／着物	130.0(h) × 188.5	購入
長尾紀壽	(1940-)	沖縄の風「ウージ畑」	2001	和紙、糊防染、墨、顔料、ステンシル、ドローイング、型染／二曲一隻屏風	180.0(h) × 180.0	購入
長尾紀壽	(1940-)	幽(川面のさわふじ)	2016	和紙、糊防染、墨、顔料、ステンシル、ドローイング、型染／二曲一隻屏風	160.0 × 140.0	作者寄贈
野田睦美	(1971-)	常寂光土	2018	特殊組紐、ポリエステル糸、毛糸、ラミー糸、和紙、水引、ポリエステル製ネット、綴織、輪奈織、浮き織、結び織	360.0 × 15.0 × 260.0(h)	購入
福本潮子	(1945-)	霞の茶室	1990	亜麻、和紙、真鍮の上に漆塗り、ぼかし染め、脱色染、大帽子絞り、しみ染、よろけ加工	180.0 × 180.0 × 180.0(h)	購入
村上良子	(1949-)	森に懸る径	1989	絹、紬織／着物	136.0 × 175.5(h)	購入
八幡はるみ	(1956-)	フィトテラピー	2017	シェイプド・ダイ、スクリーンプリント、手染め、デジタルプリント、その他の混合技法／軸(6幅)	(各)180.0 × 40.0	購入
八幡はるみ	(1956-)	フィトテラピー II	2019	シェイプド・ダイ、スクリーンプリント、手染め、デジタルプリント、その他の混合技法／軸(6幅)	(各)180.0 × 40.0	作者寄贈

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法／形状	寸法〔cm〕	購入・寄贈
八幡はるみ	(1956-)	フィトテラピー III	2019	シェイプド・ダイ、スクリーンプリント、手染め、デジタルプリント、その他の混合技法／軸(6幅)	(各)180.0 × 40.0	作者寄贈
八幡はるみ	(1956-)	パズル	2019	綿、ハンドスクリーンプリント	180.0 × 134.0	購入
吉村正郎	(1946-2017)	スタンドアップクロス	1977	布	40.0 × 40.0 × 400.0	前田亮二氏寄贈
吉村正郎	(1946-2017)	パッキングクロス	1978	布	70.0 × 50.0 × 50.0	前田亮二氏寄贈
吉村正郎	(1946-2017)	フレームクロスA. B. C	1985	布	186.0 × 96.0 × 16.0	前田亮二氏寄贈
マリアン・ヘルク	(1947-)	Velvet City	1991	ベルベット、木	300.0 × 760.0	作者寄贈
マリアン・ヘルク	(1947-)	To find emptiness	2009	紙、セメント、アクリル絵の具、インク	500.0 × 400.0 × 12.0	作者寄贈
ニコラ・ヘンリー	(1960-)	Cuckoo	1988	木綿、シルクスクリーン、刺繍	115.0 × 200.0	林文江氏寄贈
ニコラ・ヘンリー	(1960-)	Crow, Descent	1990	木綿、シルクスクリーン、刺繍	96.0 × 62.0	林文江氏寄贈

その他

加守田章二	(1933-1983)	墨絵「下館出土弥生式大盃」	1967	紙本墨画	26.5 × 36.0(h)	購入
柴田是真(1807-1891)、加納夏雄(1828-1898)、旭玉山(1843-1923)、加納鐵哉(1845-1925)、石川光明(1852-1913)、高村光雲(1852-1934)、香川勝廣(1853-1917)、大谷光利(生没年不詳)		福禄封候図飾棚	1883	紫檀、竹、象牙、銀、四分一、金、漆／棚	59.0 × 29.0 × 82.3(h)	購入
ピピロッティ・リスト	(1962-)	永遠は終わった、永遠はあらゆる場所に (Ever Is Over All)	1997	2面をオーバーラップさせて投影するヴィデオ・インスタレーション、サウンド(音楽：ピピロッティ・リスト＋アンダース・グッギスベルグ)	可変サイズ (左：4分9秒・右：8分25秒、ループ再生)	購入

資料

岡本神草	(1894-1933)	浮世絵模写「天窓之底」	1914	紙、墨、顔料／こより綴じ	39.8 × 27.2	株式会社星野画廊 代表取締役 星野桂三氏寄贈
岡本神草	(1894-1933)	中国人物模写	1915	紙、墨、顔料／こより綴じ	39.2 × 27.5	株式会社星野画廊 代表取締役 星野桂三氏寄贈
岡本神草	(1894-1933)	「浮世絵能栞」	n.d.	紙、墨／こより綴じ	24.2 × 16.7	株式会社星野画廊 代表取締役 星野桂三氏寄贈
		岡本神草旧蔵図版	n.d.	印刷物	23.0 × 22.5ほか	株式会社星野画廊 代表取締役 星野桂三氏寄贈
河井寛次郎	(1890-1966)	作品図案　3点	c.1924	紙本墨画	(各)32.5(h) × 48.0	購入
河井寛次郎	(1890-1966)	作品配置図面	c.1924	紙本墨画	47.0(h) × 32.7	購入
富岡鉄斎	(1836-1924)	粉本　魚籃観音像	n.d.	紙、墨、金彩／軸	38.7 × 26.2	奥田素子氏寄贈

種別替作品［図書→資料］

編：オットー・ユリウス・ビーアバウム(1865-1910)、ユリウス・マイヤー＝グレーフェ(1867-1935)	『パン』(1895年第1巻、1895年第2巻、1896年第1巻、1896年第2巻、1897年第1巻、1897年第2巻、1898年第1巻、1898年第2巻、1899年第1巻、1899年第2巻)	1895-99	木版、カラーリトグラフ、印刷ほか、紙／雑誌(合本) 発行：ベルリン	(各)36.6 × 28.6	種別変更

保存
Conservation

［絵画16点、工芸3点］

久保田米僊《水中落花蝶図》を修復した。受贈時に傷んだ状態であった田中竜児《無題》及び受贈時に額装されていなかった下村良之介《くるみ》を修復・新規額装した。

また、画面や額装に問題がありながら修復の機会がなかった小林柯白《新緑》《湖畔初夏》、真道黎明《宇宙のロマン》及び大野俶嵩《雑草》を修復した。

貸出
Loan

［作品貸出　57件549点／57 sets of 549］

国内では、「おかえり 美しき明治」展（府中市美術館）に京都国立近代美術館が所蔵する充実した明治期の水彩画から、梅原龍三郎《三十三間堂》（1906年）ほか37点を貸与したほか、「ミュシャと日本、日本とオルリク」展（千葉市美術館、和歌山県立近代美術館、岡山県立美術館、静岡市美術館）に京都国立近代美術館のウィーン分離派をはじめとする19世紀末の充実したコレクションから、コロマン・モーザー《月次絵》（1899年頃）ほか版画・資料25点を貸与し、展覧会の開催に寄与した。また、京都国立近代美術館所蔵作品を中心とした展覧会「京都の工芸 近代から現代まで～京都国立近代美術館所蔵作品を中心に」（金沢市立中村記念美術館）に二代木村表斎《鶯宿梅蒔絵吸物椀》（明治中期）ほか工芸品26点を貸与し、地方における国立美術館の知名度の向上に寄与した。

また、海外に対しては、台北市立美術館（台湾、台北）で開催された「她的抽象 The Herstory of Abstraction in East Asia」に、田中敦子作品《作品'63》（1963年）ほか3点を貸与し、作品の国際的な認知度を高めることができた。

［特別観覧　85件251点／85 sets of 251］

特別協力
Special Cooperation

“她的抽象
The Her story of Abstraction in East Asia”

会期：令和元年7月20日（土）～10月27日（日）
会場：臺北市立美術館（台湾・台北）
主催：臺北市立美術館
監修：文貞姫（MOON Jung-Hee）、王品驊（WANG Pin-Hua）
特別協力：東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、金沢21世紀美術館、国立現代美術館（韓国・ソウル）、国立台湾美術館（台湾・台中）

府中市制施行65周年記念
おかえり「美しき明治」

会期：令和元年9月14日（土）～12月1日（日）
会場：府中市美術館
主催：府中市美術館、日本経済新聞社
後援：ブリティッシュ・カウンシル
特別協力：京都国立近代美術館、郡山市立美術館、小杉放菴記念日光美術館、横浜美術館

京都の工芸 近代から現代まで
～京都国立近代美術館所蔵品を中心に～

会期：令和元年11月1日（金）～12月15日（日）
会場：金沢市立中村記念美術館
主催：金沢市立中村記念美術館［（公財）金沢文化振興財団］、「東京国立近代美術館工芸館名品展」等実行委員会
特別協力：京都国立近代美術館
後援：北國新聞社、テレビ金沢、北陸放送

京都造形芸術大学大学院
グローバル・ゼミの共同研究展
「RESONANCES：現代美術の動向展・リサーチ」

会期：令和元年12月4日（水）～令和2年1月26日（日）
会場：HOTEL ANTEROOM KYOTO | Gallery 9.5
主催・企画：京都造形芸術大学大学院 グローバル・ゼミ
監修：片岡真実、中山和也
特別協力：京都国立近代美術館
共催：ホテルアンテルーム京都
企画協力：京都国立近代美術館
協力：京都造形芸術大学ウルトラファクトリー

普及事業
Public Programs

NFAJ 所蔵作品選集 MoMAK Films
MoMAK Films Screening

会場：京都国立近代美術館講堂
主催：京都国立近代美術館、国立映画アーカイブ
特別協賛：木下グループ

プログラム：
[映画プロデューサー黒澤満]
▶令和元年5月18日（土）①午後2時〜3時43分 ②午後4時〜6時03分
上映作品：①『べっぴんの町』1989年（東映） ②『行きずりの街』2010年（「行きずりの街」製作委員会）
参加人数：20名

▶令和元年5月19日（日）①午後2時〜3時33分 ②午後4時〜5時32分
上映作品：①『死の断崖』1982年（日本テレビ＝セントラル・アーツ）②『カルロス』1991年（東映ビデオ＝きうちかずひろ＝講談社）
参加人数：27名

[学園のドレス・コード]
▶令和元年8月24日（土）①午後2時〜3時30分 ②午後4時〜5時36分 ③午後6時〜7時59分
上映作品：①『1999年の夏休み』1988年（ニュー・センチュリー・プロデューサーズ＝ソニービデオソフトウェアインターナショナル）②『櫻の園』1990年（ニュー・センチュリー・プロデューサーズ＝サントリー）③『がんばっていきまっしょい』1998年（フジテレビジョン＝ポニーキャニオン＝アルタミラピクチャーズ）
参加人数：80名（①41名②17名③22名）

▶令和元年8月25日（土）午後2時〜4時15分
上映作品：『青春デンデケデケデケ』1992年（ギャラックプレミアム＝ピー・エス・シー＝リバティフォックス）
参加人数：18名

[映画美術を見る1：木村威夫]
▶令和元年11月23日（土・祝）①午後2時〜4時25分 ②午後5時〜6時53分
上映作品：①『ツィゴイネルワイゼン』1980年（シネマ・プラセット）②『黒い潮』1954年（日活）
参加人数：14名（①7名②7名）

▶令和元年11月24日（日）①午後2時〜3時21分 ②午後3時30〜
上映作品：①『夢みるように眠りたい』1986年（映像探偵社）②林海象監督によるアフタートーク
参加人数：23名

[オリンピック記録映画特集 —より速く、より高く、より強く]
特別協力：オリンピック文化遺産財団
協力：日本オリンピック委員会、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

▶令和2年2月15日（土）①午後2時〜4時6分 ②午後4時30分〜7時30分
上映作品：①『民族の祭典』1938年（オリンピア・フィルム）②『東京オリンピック』1965年（東京オリンピック映画協会）
参加人数：23名（①15名②8名）

▶令和2年2月16日（日）①午後2時〜3時52分 ②午後4時10分〜5時27分
上映作品：①『白い恋人たち／グルノーブルの13日』1968年（レ・フィルム13）②『ホワイトロック』1977年（ワールドマーク・プロダクションズ＝サミュエルソン・インターナショナル）
参加人数：19名（①12名②7名）

講演会、シンポジウム、ギャラリートーク
Lectures, Symposia, Gallery Talks

▶平成31年4月17日（水）午後3時〜4時20分
コレクション・ギャラリー 解説（朝日旅行）
講師：大長智広（当館研究員）
会場：京都国立近代美術館講堂、4階コレクション・ギャラリー
参加人数：23名

▶平成31年4月26日（金）午後2時〜3時30分
「陶工・河井寛次郎」展関連イベント 特別講演会
「祖父・河井寛次郎と川勝堅一の絆」
講師：鷺珠江（河井寛次郎記念館学芸員）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：49名

▶平成31年4月30日（火・祝）午後2時〜3時
「陶工・河井寛次郎」展関連イベント トークショー
「河井寛次郎を語る」
講師：桂南光（落語家）
聞き手：大長智広（当館研究員）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：84名

▶令和元年5月6日（月・振休）午後2時〜3時30分
「陶工・河井寛次郎」展関連イベント 記念講演会
「河井と川勝—友情が生んだ珠玉のコレクション」
講師：大長智広（当館研究員）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：58名

▶令和元年 ①5月10日（金）②5月24日（金）各日午後6時〜7時
「陶工・河井寛次郎」展関連イベント ギャラリートーク
講師：大長智広（当館研究員）
会場：京都国立近代美術館3階企画展示室
参加人数：56名（①13名 ②43名）

▶令和元年5月24日（金）午後1時〜2時
「陶工・河井寛次郎」展 解説（京都美術商協同組合員）
講師：大長智広（当館研究員）
会場：京都国立近代美術館3階企画展示室
参加人数：36名

▶令和元年6月15日（土）午後2時〜3時30分
「トルコ至宝展」関連イベント 講演会「トプカプ宮殿の織物」
講師：奥村純代（トルコ・イスラーム美術史家）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：100名

▶令和元年 ①6月21日（金）②7月12日（金）各日午後6時〜7時
「トルコ至宝展」関連イベント ギャラリートーク
講師：梶岡秀一（当館主任研究員）
会場：京都国立近代美術館3階展示室
参加人数：40名（①20名 ②20名）

▶令和元年6月23日（日）午後2時〜3時30分
「トルコ至宝展」関連イベント 講演会「トプカプ宮殿とチューリップ文化」
講師：ヤマンラール水野美奈子（本展監修者／元龍谷大学教授／国際トルコ美術史学会理事）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：100名

▶令和元年6月24日（月）午後2時〜3時
「トルコ至宝展」協賛者内覧会
講師：梶岡秀一（当館主任研究員）
会場：京都国立近代美術館3階企画展示室
参加人数：89名

▶令和元年6月26日（水）午後2時〜3時30分
「トルコ至宝展」関連イベント 講演会
「トプカプ宮殿からドルマバフチェ宮殿へ：オスマン宮廷と明治の日本美術工芸品」
講師：ジラルデッリ青木美由紀（美術史家）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：100名

▶令和元年7月11日（木）午前10時〜11時
NHK文化センター京都教室「美術館めぐり」
講師：梶岡秀一（当館主任研究員）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：13名

▶令和元年7月18日（木）午前10時〜11時
「トルコ至宝展」解説（京都工芸研究会）
講師：梶岡秀一（当館主任研究員）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：18名

▶令和元年7月19日（金）正午〜午後4時
「トルコ至宝展」セミナー（㈱ワールド航空サービス）
講師：梶岡秀一（当館主任研究員）
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室
参加人数：82名

▶令和元年8月9日（金）午後3時〜
「ドレス・コード」展関連イベント 連続アーティストトーク
アーティスト：青山悟、元田敬三、ハンス・エイケルブーム、都築響一
会場：京都国立近代美術館3階企画展示室
参加人数：41名

▶令和元年8月10日（土）午後6時30分〜
「ドレス・コード」展関連イベント ギャラリートーク
講師：石関亮（京都服飾文化研究財団キュレーター）
会場：京都国立近代美術館3階企画展示室
参加人数：18名

▶令和元年8月22日（木）午後1時〜5時
「ドレス・コード」展 団体レクチャー（KCI京都服飾研究財団ワコール関係者）
講師：牧口千夏（当館主任研究員）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：14名

▶令和元年8月30日（金）午後6時30分〜
「ドレス・コード」展関連イベント ギャラリートーク
講師：牧口千夏（当館主任研究員）
会場：京都国立近代美術館3階企画展示室
参加人数：9名

▶令和元年8月31日（土）午後1時30分〜4時30分
「ドレス・コード」展関連イベント
シンポジウム「ドレス・コード？ーそれぞれのファッション学の視点から」
登壇者：内村理奈（日本女子大学家政学部准教授）、平芳裕子（神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授）、井上雅人（武庫川女子大学生活環境学部准教授）、小形道正（京都服飾文化研究財団アシスタント・キュレーター）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：80名

▶令和元年9月3日（火）午後1時30分〜6時
第25回ICOM（国際博物館会議）京都大会2019コスチューム部会によるセッション［同時通訳付］
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：104名

▶令和元年9月5日（木）午後3時〜4時
第25回ICOM－COMCOL（国際博物館会議 コレクション活動に関する国際委員会）「ドレス・コード」展およびコレクション展 解説
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室、4階コレクション・ギャラリー
参加人数：32名

▶令和元年9月14日（土）午後6時30分〜
「ドレス・コード」展関連イベント ギャラリートーク
講師：小形道正（京都服飾文化研究財団アシスタント・キュレーター）
会場：京都国立近代美術館3階企画展示室
参加人数：19名

▶令和元年9月18日（水）午後2時〜6時
「ドレス・コード」展 KCI 団体レクチャー（関西ファッション連合）
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室
参加人数：13名

▶令和元年9月27日（金）午後5時〜8時
「ドレス・コード」展 KCI 団体レクチャー（京都府文化芸術課）
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室
参加人数：18名

▶令和元年10月27日（日）午後1時〜4時
霧の街のアーカイブ第2回オープンレクチャー
シンポジウム「聞こえないを聴く・見えないを視る」
出演（パフォーマンス）：鈴木昭男（サウンドアーティスト）
登壇：奥村一郎（和歌山県立近代美術館学芸員）、カトリーヌ・グルー（フランス国立建築造園高等専門家養成学校リール校教授）、広瀬浩二郎（国立民族学博物館准教授）、毛利悠子（美術家／東京藝術大学講師）、砂山太一（建築家／京都市立芸術大学美術学部講師）
進行：高橋悟
主催：京都市立芸術大学
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：100名

▶令和元年11月2日（土）午後2時〜3時30分
「円山・四条派展」関連イベント 講演会「近代京都画壇―美術と産業」
講師：並木誠士（京都工芸繊維大学美術工芸資料館館長）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：88名

▶令和元年11月9日（土）午後2時〜3時30分
「円山・四条派展」関連イベント 講演会「京都画壇と千總―岸竹堂を中心に―」
講師：加藤結理子（千總文化研究所所長）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：63名

▶令和元年11月11日（月）午前9時〜11時
「円山・四条派展」顧客向け内覧会（賛助会員 三井住友銀行）
講師：平井啓修（当館研究員）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：573名

▶令和元年11月12日（火）午後1時10分〜3時10分
「円山・四条派展」解説（富山県水墨美術館友の会）
講師：平井啓修（当館研究員）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：36名（うち引率2名）

▶令和元年 ①11月15日（金）②12月6日（金）各日午後6時〜7時
「円山・四条派展」関連イベント ギャラリートーク
講師：平井啓修（当館研究員）
会場：京都国立近代美術館3階企画展示室
参加人数：40名（①20名 ②20名）

▶令和元年11月15日（金）午前11時〜正午
「円山・四条派展」解説（京都ホテルオークラ）
講師：平井啓修（当館研究員）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：5名

▶令和元年11月19日（火）午後1時30分〜2時
「円山・四条派展」解説（姫路市立美術館友の会）
講師：平井啓修（当館研究員）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：44名

▶令和元年11月21日（木）午後1時〜2時
「円山・四条派展」解説（岸和田健老大学）
講師：平井啓修（当館研究員）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：44名

▶令和元年11月21日（木）午後2時30分〜3時
「円山・四条派展」解説（ひろしま美術館友の会）
講師：平井啓修（当館研究員）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：36名（うち引率1名）

▶令和元年11月29日（金）午後6時30分〜7時15分
「円山・四条派展」関連 プレミアムナイトイベント
出演：山岨眞應氏（大乗寺副住職）＆三好和義氏（写真家）
司会：平井啓修（当館研究員）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：76名

▶令和元年11月30日（土）午後2時〜3時30分
「円山・四条派展」関連イベント 講演会「空を描く」
講師：山岨眞應（大乗寺副住職）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：100名

▶令和2年1月11日（土）午後2時〜3時30分
「ニーノ・カルーソ」展関連イベント 講演会「父 ニーノ・カルーソ」
講師：アンドレア・カルーソ（彫刻家）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：61名

▶令和2年 ①1月24日（金）②2月7日（金）各日午後6時〜7時
「ニーノ・カルーソ」展関連イベント ギャラリートーク
講師：大長智広（当館研究員）
会場：京都国立近代美術館3階企画展示室
参加人数：19名（①10名 ②9名）

コンサート
Concerts

▶令和元年5月11日（土）午後5時10分〜
響／都プロジェクト 2019 コンサートシリーズ 京都国立近代美術館ホワイエコンサート
「陶工・詩人 河井寛次郎によせて」
楽曲提供：京都市立芸術大学音楽学部・大学院 作曲専攻生
演奏：京都市立芸術大学音楽学部・大学院 実技専攻生
構成／司会：岡田加津子（京都市立芸術大学音楽学部教授）
会場：京都国立近代美術館1階ホワイエ
参加人数：91名
主催：京都市立芸術大学
共催：京都国立近代美術館

▶令和元年6月21日（金）展示（講堂）午後1時〜7時
演奏（ロビー）午後4〜6時
2019年 音楽の祭日　観て！聴いて！ドビュッシー！
出演：二俣菜月、福井尚子、前川由依、福田優花、山下彩恵、増永弦、原田莉奈
展示：伊砂利彦《ドビッシー作曲「前奏曲Ⅰ・Ⅱ」のイメージより》全24点（1981-84）京都国立近代美術館蔵
会場：京都国立近代美術館1階
参加人数：91名
主催：アンスティチュ・フランセ関西、京都国立近代美術館、読売新聞社
後援：（公財）日本文化藝術財団、京都日仏協会
協力：京滋ピアノ調律（上野）、（株）ワタナベ楽器店、ぎゃらりー伊砂、京型絵伊砂
企画：伊砂工房
主管：『音楽の祭日』日本事務局

▶令和元年7月21日（日）午後2時30分〜4時30分
新作能「沖宮」上映会／金剛龍謹×志村昌司による対談「能の視点から見た沖宮」
登壇：金剛龍謹（能楽金剛流若宗家）、志村昌司（アトリエシムラ代表）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：105名
共催：株式会社 求龍堂、石牟礼道子と志村ふくみの願いを叶える会（株式会社FUKUMI SHIMURA、株式会社ATELIER SHIMURA）

▶令和元年11月16日（土）午後5時10分〜
響／都プロジェクト 2019 コンサートシリーズ 京都国立近代美術館ホワイエコンサート
お話：久保和範（京都市立芸術大学准教授）
出演：京都市立芸術大学音楽学部専攻4回生ほか
会場：京都国立近代美術館1階ホワイエ
参加人数：133名
主催：京都市立芸術大学
共催：京都国立近代美術館

学習支援事業
Learning Programs

ワークショップ
Workshops

▶令和元年 5月5日（日・祝）①午前10時〜正午 ②午後2時〜4時
「陶工・河井寛次郎」関連イベント
子どもワークショップ「光る！オリジナル泥団子づくり」
講師：吉田瑞希（陶芸家）
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室
参加人数：25名（①8組15名 ②5組10名）

▶令和元年9月8日（日）午後12時10分〜4時30分
「ドレス・コード」展関連イベント
ワークショップ「2050年のドレス・コードを考えよう！」
ファシリテーター：水野大二郎［芸術博士（ファッションデザイン）、京都工芸繊維大学KYOTO Design Lab特任教授］ほか
講師：石関亮（京都服飾文化研究財団キュレーター）
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室
参加人数：44名

▶令和年9月16日（月・祝）午後1時30分〜4時
「ドレス・コード」展関連イベント
手話とアート「それってどんな服？〜sign language dress up〜」
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室
参加人数：18名
企画：NPO法人エイブル・アート・ジャパン「美術と手話プロジェクト」、筒井直子（京都服飾文化研究財団キュレーター）

▶令和元年 ①9月21日（土）②9月28日（土）各日午後1時〜4時
「ドレス・コード」展関連イベント
子どものワークショップ「着せかえ紙人形を使って19世紀のファッション・デザイナーになろう！」
会場：京都国立近代美術館1階ロビー
参加人数：102名（①42名 ②60名）

▶令和元年12月1日（日）①午前10時〜正午 ②午後1時30分〜3時30分
「円山・四条派展」関連ワークショップ　日本画－実演と体験－［英語・中国語・韓国語通訳付］
講師：東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学保存修復日本画研究室
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：39名（①18名 ②20名）
助成：2019年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業

鑑賞プログラム
Appreciation Programs

▶令和元年9月22日（日）午後1時〜4時30分
ミュージアム・アクセス・ビューとの連携企画「ドレス・コード」展 鑑賞ツアー
会場：京都国立近代美術館3階企画展示室
参加人数：21名
共催：ミュージアム・アクセス・ビュー

▶令和元年11月17日（日）午前8時30分〜9時30分
「円山・四条派展」関連イベント ファミリープログラム「びじゅつかんで いきものさがし」
会場：京都国立近代美術館3階企画展示室
参加人数：83名（子ども42名、大人41名）

▶令和2年2月2日（日）午後1時〜4時30分
ミュージアム・アクセス・ビューとの連携企画「ニーノ・カルーソ」展鑑賞ツアー
会場：京都国立近代美術館3階企画展示室
参加人数：28名
共催：ミュージアム・アクセス・ビュー

プリントスタディ
Print Studies

▶令和元年11月30日（土）午前10時30分〜正午
京都造形芸術大学通信教育部美術科写真コース　写真作品鑑賞授業
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：19名（引率1名、学生18名）
共催：京都造形芸術大学

学校連携
School Programs

▶平成31年4月6日（土）午前10時30分〜11時30分
大阪芸術大学芸術学部美術学科「京都の染織」展 団体鑑賞
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室、4階コレクション・ギャラリー
参加人数：77名
共催：大阪芸術大学

▶平成31年4月16日（火）午前9時10分〜11時30分
京都市立銅駝美術工芸高等学校 平成31年度新入生美術入門研修
会場：京都国立近代美術館講堂、バックヤード、3階企画展示室、4階コレクション・ギャラリー
参加人数：100名（引率7名、生徒93名）
共催：京都市立銅駝美術工芸高等学校

▶令和元年5月25日（土）午後3時〜4時30分
京都先端科学大学大学院「陶工・河井寛次郎」展 団体鑑賞
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室、4階コレクション・ギャラリー
参加人数：22名
共催：京都先端科学大学大学院

▶令和元年5月28日（火）午前10時〜正午
京都市立芸術大学美術学部・美術研究科「博物館実習1」施設見学
会場：京都国立近代美術館講堂、バックヤード、3階企画展示室
参加人数：30名（引率2名、学生28名）
共催：京都造形芸術大学

▶令和元年6月16日（日）午後1時10分〜2時30分
奈良先端科学技術大学院大学「トルコ至宝展」団体鑑賞
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室、4階コレクション・ギャラリー
参加人数：41名（引率7名、留学生34名）
共催：奈良先端科学技術大学院大学

▶令和元年6月18日（火）午前10時40分〜12時10分
京都美術工芸大学「トルコ至宝展」団体鑑賞
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室
参加人数：18名（引率1名、学生17名）
共催：京都美術工芸大学

▶令和元年6月19日（水）午前10時〜11時30分
京都造形芸術大学芸術学部環境デザイン学科「建築計画論」施設見学
会場：京都国立近代美術館講堂、バックヤード、4階コレクション・ギャラリー
参加人数：52名（引率1名、学生51名）
共催：京都造形芸術大学

▶令和元年7月9日（火）午後1時〜3時
嵯峨美術大学『展示を作る』施設見学
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：41名（引率6名、学生35名）
共催：嵯峨美術大学芸術学部デザイン学科グラフィックデザイン領域

▶令和元年8月2日（金）午後1時〜4時30分
近畿高等学校総合文化祭京都大会 美術・工芸部門
第2回生徒運営委員会 ファシリテーター研修
会場：京都国立近代美術館講堂、4階コレクション・ギャラリー
参加人数：26名（引率9名、生徒17名）
共催：京都府高等学校文化連盟 美術・工芸専門部

▶令和元年8月5日（月）午後1時30分〜5時
令和元年度 授業実践力向上講座（図画工作科・美術科連携講座）
会場：京都国立近代美術館講堂、4階コレクション・ギャラリー
参加人数：64名（小中学校・支援学校教員49名、スタッフ16名）
共催：京都市教育委員会、京都市図画工作教育研究会、京都市立中学校教育研究会美術部会

▶令和元年8月9日（金）午前10時〜正午
奈良教育大学附属中学校「ドレス・コード」展 鑑賞学習
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室
参加人数：22名（引率2名、生徒20名）
共催：奈良教育大学附属中学校

▶令和元年 ①9月14日（土）午後2時〜5時 ②10月2日（水）午前11時〜午後2時
「ドレス・コード」展 KCI 団体レクチャー（関西大学社会学部）
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室
参加人数：①6名 ②22名
共催：京都服飾文化研究財団、関西大学社会学部

▶令和元年9月18日（水）午前10時〜11時
「ドレス・コード」展 KCI 団体レクチャー（実践女子大学）
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室
参加人数：9名
共催：京都服飾文化研究財団、実践女子大学

▶令和元年9月19日（木）午後1時〜4時
「ドレス・コード」展 KCI 団体レクチャー（関西学院大学）
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室
参加人数：13名（引率1名、学生12名）
共催：京都服飾文化研究財団、関西学院大学

▶令和元年9月28日（土）午前9時〜午後1時
「ドレス・コード」展 KCI 団体レクチャー（立命館大学産業社会学部）
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室
参加人数：16名（引率1名、学生15名）
共催：京都服飾文化研究財団、立命館大学

▶令和元年10月1日（火）午後2時50分〜4時10分
京都市立銅駝美術工芸高等学校「ドレス・コード」展 団体鑑賞
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室
参加人数：47名（引率3名、生徒44名）
共催：京都市立銅駝美術工芸高等学校

▶令和元年10月2日（水）午前9時〜11時
「ドレス・コード」展 KCI 団体レクチャー（ディーズファッション専門学校）
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室
参加人数：28名（引率6名、学生22名）
共催：京都服飾文化研究財団、ディーズファッション専門学校

▶令和元年10月2日（水）午後2時〜4時
「ドレス・コード」展 KCI 団体レクチャー（大阪芸術大学芸術学部工芸学科テキスタイル・染織コース）
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室、4階コレクション・ギャラリー
参加人数：31名
共催：京都服飾文化研究財団、大阪芸術大学

▶令和元年10月5日（土）午後1時〜4時
「ドレス・コード」展 KCI 団体レクチャー（立教大学）
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室、4階コレクション・ギャラリー
参加人数：9名
共催：京都服飾文化研究財団、立教大学

▶令和元年10月10日（木）午後3時〜5時
「ドレス・コード」展 KCI 団体レクチャー（神戸芸術工科大学）
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室
参加人数：25名（引率3名、学生22名）
共催：京都服飾文化研究財団、神戸芸術工科大学

▶令和元年10月11日（金）午後5時〜6時30分
京都造形芸術大学「ドレス・コード」展 団体鑑賞
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室
参加人数：65名（引率3名、学生62名）
共催：京都造形芸術大学芸術学部美術工芸学科染織テキスタイルコース

▶令和元年10月26日（土）午後2時〜2時30分
京都精華大学芸術学部「アートマネジメント論」施設見学
会場：京都国立近代美術館講堂、4階コレクション・ギャラリー
参加人数：19名（引率1名、学生18名）
共催：京都精華大学

▶令和元年10月31日（木）午後4時〜5時
武庫川女子大学生活環境学部建築学科 施設見学
会場：京都国立近代美術館講堂、バックヤード、4階コレクション・ギャラリー
参加人数：39名（引率2名、学生37名）
共催：武庫川女子大学

▶令和元年11月16日（土）午後9時〜11時30分
第21回京都市子ども美術館鑑賞教室『ほんものとの出合い』
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室、4階コレクション・ギャラリー
参加人数：40名（引率12名、児童 28名）
共催：京都市図画工作教育研究会

▶令和元年12月24日（火）午後4時10分〜5時40分
京都工芸繊維大学 デザイン学特別講義B「美術館と人を<つなぐ>—教育普及の現場から」
講師：松山沙樹（当館特定研究員）
共催：京都工芸繊維大学

感覚をひらく
―新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業
Opening the Senses　Project to Promote Innovative Art Appreciation Programs

主催：新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業実行委員会（事業実施中核館・京都国立近代美術館）
助成：平成31年度　文化庁　地域と共働した博物館創造活動支援事業

▶令和元年5月13日（月）午前10時～正午
筑波大学附属視覚特別支援学校 修学旅行
会場：京都国立近代美術館講堂、1階ロビーほか
参加人数：16名（引率4名、学生12名）
共催：筑波大学附属視覚特別支援学校

▶令和元年8月20日（火）①午前10時30分～正午 ②午後2時～3時30分
8月21日（水）③午前10時30分～正午 ④午後2時～3時30分
「美術館ってどんな音　つくって鳴らそう建築楽器」
ナビゲーター：本橋仁（当館特定研究員）、松山沙樹（当館特定研究員）
協力：山田宮土理（近畿大学建築学部建築学科講師）
会場：京都国立近代美術館
参加人数：①12名 ②12名 ③12名 ④11名

▶令和元年9月23日（月・祝）午後2時～3時30分
「感覚をひらく―新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」
「ドレス・コード」展関連トークイベント
「岡田利規、《The Fiction Over the Curtains》について語る」
講師：岡田利規（チェルフィッチュ主宰／劇作家）
聞き手：水野大二郎（芸術博士（ファッションデザイン）／京都工芸繊維大学KYOTO Design Lab特任教授）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：30名

▶令和元年12月12日（木）午後9時～正午
京都府立盲学校との連携授業
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：19名（引率8名、生徒 11名）
共催：京都府立盲学校中学部

▶令和2年 ①2月7日（金）午後2時～4時 ②2月8日（水）午後1時～3時（視覚に障害のある方1名を含む約5名で各回40分 ①3回 ②4回実施）
京都国立近代美術館オープンデー2020「ひらきまつり！」
ワークショップ「記憶の空間を旅しよう」
講師：齋藤名穂（建築家・UNI DESIGN）
ナビゲーター：松山沙樹（当館特定研究員）、本橋仁（当館特定研究員）
会場：京都国立近代美術館4階ロビー
参加人数：34名（①15名 ②19名）

▶令和2年2月7日（金）午後5時30分～7時30分
京都国立近代美術館オープンデー2020「ひらきまつり！」
トークセッション「点字でチラシをつくるとは」
第1部　話題提供：西村祐一（Rimishuna）、北原和規（UMMM）、坂田佐武郎（Neki inc.）
第2部 ディスカッション コメンテーター：広瀬浩二郎（国立民族学博物館）、福井哲也（日本ライトハウス）
司会：本橋仁（当館特定研究員）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：39名

▶令和2年2月8日（土）午前10時30分～正午
京都国立近代美術館オープンデー2020「ひらきまつり！」
「手だけが知ってる美術館　第3回　ニーノ・カルーソの陶芸」
講師：大長智広（当館研究員）
ナビゲーター：松山沙樹（当館特定研究員）、本橋仁（当館特定研究員）
会場：京都国立近代美術館1階ロビー、講堂
参加人数：20名（視覚に障害のある方3名）

▶令和2年 2月8日（土）午後4時～6時
京都国立近代美術館オープンデー2020「ひらきまつり！」
齋藤名穂講演会「五感と記憶がつくる建築・空間」
講師：齋藤名穂（建築家・UNI DESIGN）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：39名

▶令和2年2月9日（日）午前10時～正午
京都国立近代美術館オープンデー2020「ひらきまつり！」
トーク＆ワークショップ「音のズームレンズ Ontenna〈オンテナ〉を使って岡崎まちあるき！」
講師：本多達也（Ontenna プロジェクトリーダー）
ナビゲーター：松山沙樹（当館特定研究員）、本橋仁（当館特定研究員）
会場：京都国立近代美術館講堂、京都市動物園、平安神宮
参加人数：34名（見学者4名）

▶令和2年 2月9日（日）午後1時～5時
京都国立近代美術館オープンデー2020「ひらきまつり！」
萌えいずる声　百瀬文《聞こえない木下さんに聞いたいくつかのこと》上映・シンポジウム［手話通訳、文字通訳付］
登壇者：岡田温司（京都大学大学院教授）、木下知威（日本社会事業大学）、黒嵜想（批評家）、百瀬文（映像作家）
司会：本橋仁（当館特定研究員）
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：123名
主催：京都大学大学院 人間・環境学研究科 岡田温司研究室
共催：京都国立近代美術館

出版事業
Publications

展覧会図録（各展覧会の頁を参照）
Exhibition Catalogues

『視る（京都国立近代美術館ニュース）』（隔月発行）
Bimonthly Museum Newsletter “MIRU”

▶No. 502（5-6月号）
・ESSAY「「工作人」としての河井寛次郎」宮川智美（大阪市立東洋陶磁美術館学芸員）
・REVIEW「「京都の染織」展の射程」深萱真穂（フリーライター）
・リレーコラム「異文化を繋ぐ―英語解説がひらく未来―」マリサ・リンネ（京都国立博物館学芸部連携協力室専門職）
▶No. 503（7-8月号）
・ESSAY「オスマン帝国、エルトゥールル号と宗教の政治」上野雅由樹（大阪市立大学准教授）
・REVIEW「友情の結晶」川井遊木（アサヒビール大山崎山荘美術館学芸員）
・リレーコラム「くろを眺める」趙ウニル（中国哲学史専攻 京都大学博士（文学）／京都国立博物館学芸部アソシエイトフェロー）
▶No. 504（9-10月号）
・INTERVIEW「わざわざ展覧会を観に行く意味をデザインする―元木大輔氏に聞く」牧口千夏・本橋仁（文責・構成）
・MoMAK REPORT「新収蔵品紹介：ローズマリー・トロッケル《I wonder》2016年」牧口千夏
・リレーコラム「茶壷の中の別天地」古勝隆一（京都大学人文科学研究所准教授）
▶No. 505（11-12月号）
・ESSAY「「円山応挙から近代京都画壇へ」展の気になる作品《魚介尽くし》」五十嵐公一（大阪芸術大学教授）
・REVIEW「ファッション展は遅延性の衝突により批評する」保坂健二朗（東京国立近代美術館主任研究員）
・リレーコラム「壁を磨く絵師」渡邉如心（浄土真宗本願寺派信覚寺住職）
▶No.506（1-2月号）
・ESSAY「イタリア陶芸の一側面」クラウディア・カザーリ（ファエンツア国際陶芸美術館長）
・ESSAY「ニーノ・カルーソとの想い出」平井智（陶芸家）
・REVIEW「原点へ回帰する京都近美」藤本真名美（和歌山県立近代美術館学芸員）
・リレーコラム「錬金術師のまなざし」池田紘一（九州大学名誉教授）
▶No.507（3-4月号）
・ESSAY「〈ポーランド派〉誕生前夜－社会主義リアリズム映画と『鉄路の男』」菅原祥（京都産業大学准教授）
・MoMAK REPORT「新収蔵品紹介：石井柏亭《画室》1930年（昭和5）」梶岡秀一（当館主任研究員）
・MoMAK REPORT「新収蔵品紹介：加藤土師萌《萌黄金襴手菊文蓋付大飾壺》1968年（昭和43）」大長智広（当館研究員）
・「何ものかを湛えている平凡なもの」樋口至宏（フリーの編集者）

『CROSS SECTIONS（京都国立近代美術館研究論集）』
Museum Bulletin “CROSS SECTIONS”

▶Vol. 9
・研究ノート「雑誌『カメラ・ワーク』における分離派的なるものと日本的なるものの交差について」池田祐子（国立西洋美術館主任研究員）
・研究ノート「赤瀬川原平の千円札―「偽札事件の模倣」としての解釈の試み―」渡邉くらら（当館研究補佐員）
・調査報告「Die Katagami- Sammlung des Kunstgewerbemuseums Dresden – eine Squrensuche」ケルスティン・シュテーファー（翻訳・解説：池田祐子）
・キュレトリアル・スタディズ11「七彩に集った作家たち」柳原正樹（当館館長）
　記念対談「七彩を語る」：藤井秀雪×柳原正樹
・エデュケーショナル・スタディズ「「感覚をひらく―新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」について」松山沙樹（当館特定研究員）
・活動報告「「オーダーメイド：それぞれの展覧会」ORDER＆REORDER: Curate Your Own Exhibition」牧口千夏（当館主任研究員）

『京都国立近代美術館活動報告』
“MoMAK Report”

▶平成27（2015）年度／平成28（2016）年度版

『京都国立近代美術館概要』（年1回発行）
Annual Museum Brochure “Independent Administrative Institution National Museum of Art, The National Museum of Modern Art, Kyoto”

▶平成31／令和元（2019）年度版

『新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業 実施報告書』
Annual Report “Project to Promote Innovative Art Appreciation Programs”

▶平成31／令和元（2019）年度版

「感覚をひらく―新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」『さわるコレクション』
‘Opening the Senses　Project to Promote Innovative Art Appreciation Programs’ Touchable pictures and texts “Tactile Collection”

▶平成31／令和元年度版（1. 棟方志功《二菩薩釈迦十大弟子》より〈文殊菩薩〉・〈優婆離〉1939年、2. 井田照一《Weekday》、1968年、3. リチャード・スリー《かたむいた角》、1987年）
制作協力：京都教育大学、ミュージアム・アクセス・ビュー

その他の事業
Others

京都国立近代美術館 友の会
The Membership of MoMAK

近現代美術に関心を持つ人々の鑑賞や研究の便宜を図り、また当館の多彩な活動をサポートしていただく目的で、平成15年度に「京都国立近代美術館　友の会」を発足させた。

会員数
The Number of Members

令和元年度末の時点で、会員数は859人（内訳：一般会員810人（うち学生25人）、特別会員22人、団体会員2件）。

特別解説会
Gallery Talks for MoMAK Membership

▶令和元年5月17日（金）午後6時30分～7時30分
解説者：大長智広（当館研究員）
会場：「陶工・河井寛次郎」展会場
参加人数：21名

▶令和元年6月20日（木）午後5時～6時
解説者：梶岡秀一（当館主任研究員）
会場：「トルコ至宝展」会場
参加人数：27名

▶令和元年8月31日（土）午後6時～7時
解説者：牧口千夏（当館主任研究員）
会場：「ドレス・コード」展会場
参加人数：11名

▶令和元年12月1日（日）午後4時45分～6時15分
解説者：平井啓修（当館研究員）
会場：「円山・四条派展」会場
参加人数：26名

▶令和2年2月14日（金）午後6時～7時
解説者：大長智広（当館研究員）
会場：「ニーノ・カルーソ」展会場
参加人数：19名

無料観覧日
Free Admission Days (Collection Gallery only)

企画展を実施していない土曜日などについて、コレクション・ギャラリーの無料観覧を実施。

平成31年4月20日（土）夜間開館　入館者数：375人
令和元年5月1日（水・天皇の即位の日）　入館者数：572人
令和元年5月18日（土・国際博物館の日）夜間開館
入館者数：464人
令和元年6月8日（土）夜間開館 入館者数：315人
令和元年8月3日（土）夜間開館 入館者数：318人
令和元年9月1日（日・関西文化の日プラス）
入館者数：864人
令和元年10月19日（土）夜間開館　入館者数：296人
令和元年10月22日（火・即位礼正殿の儀の行われる日）
入館者数：1,728人
令和元年10月26日（土）夜間開館　入館者数：314人
令和元年11月3日（日・文化の日）　入館者数：1,202人
令和元年11月16日（土・関西文化の日）夜間開館
入館者数：1,575人
令和元年11月17日（日・関西文化の日）入館者数：1,183人
令和元年12月21日（土）夜間開館　入館者数：269人
令和2年2月22日（土）夜間開館　入館者数：285人

夜間開館
Evening Hours

金・土曜日の開館時間を午後8時まで延長。また、令和元年7月5日から10月12日までの期間は、金・土曜日の開館時間を午後9時まで延長。
あわせて、コレクション展、自主企画展において延長時間（午後5時以降）については観覧料の夜間割引を実施。

▶コレクション・ギャラリー及び企画展における展示目録の作成・頒布（日・英・簡体中文・韓）
▶コレクション・ギャラリー及び企画展における音声ガイドの提供（日・英・簡体中文・韓）
▶展覧会案内カレンダーの作成・頒布（日・英）
▶MoMAK Films案内カレンダーの作成・頒布
▶京都国立近代美術館フロアガイド各国語版の頒布（日・英・独・仏・伊・西・簡体中文・繁体中文・韓）の頒布
▶多言語対応案内用デジタルサイネージの設置（日・英・簡体中文・繁体中文・韓）
▶鑑賞の手引書「ガイドブック」の頒布
▶京都国立近代美術館 点字・拡大文字パンフレットの作成・頒布
▶インターネットホームページおよびSNS（Facebook、Instagram）による広報（インターネットホームページ：日・英・簡体中文・韓）
▶「感覚をひらく―新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」の特設ページを当館ウェブサイト内に開設（文字サイズの拡大・白黒反転）
▶「感覚をひらく―新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」事業紹介リーフレットの頒布（日・英）

柳原正樹

[論文等]
▶「美術館の次なる時代へ」『新美術新聞』No. 1500、美術年鑑社、平成31年3月、2頁
▶巻頭エッセイ「ICOM京都大会にむけて」『博物館研究』5月号Vol.54 No.5（No.611）、公益財団法人日本博物館協会、平成31年4月25日、2-3頁
▶「ICOM京都大会にむけて」『新美術新聞』No. 1508、美術年鑑社、令和元年6月、2頁
▶「三軌展 第71回展によせて」『三軌：NextEpoch作品集』2019年、三軌会、令和元年7月
▶「ICOM京都大会を終えて」『新美術新聞』No. 1516、美術年鑑社、令和元年9月、2頁
▶「『奥谷博展』に寄せて」『新美術新聞』No. 1517、美術年鑑社、令和元年10月、1頁
▶「巻頭あいさつ」『京都国立近代美術館研究論集CROSS SECTIONS』Vol.9、令和元年10月
▶［キュレトリアル・スタディズ11］「七彩に集った作家たち」『京都国立近代美術館研究論集CROSS SECTIONS』Vol.9、令和元年10月、51-59頁
▶［エデュケーショナル・スタディズ］「記念対談『七彩を語る』＝藤井秀雪×柳原正樹」『京都国立近代美術館研究論集CROSS SECTIONS』Vol.9、令和元年10月、60-77頁
▶「改組 新 第6回日展東海展　私のイチオシ作品」『中日新聞』令和2年1月26日付朝刊、15面
▶「改組 新 第6回日展　審査にあたって」『日展ニュース』174号、公益財団法人日展、令和2年1月30日、13頁
▶巻頭エッセイ「〈花鳥風月〉という美」『美術京都』第51号、公益財団法人中信美術奨励基金、令和2年3月、1頁
▶「関西美術動向」『新美術新聞』No. 1530、美術年鑑社、令和2年3月、2頁

[口頭発表等]
▶新選考委員就任記念座談会「京都画壇、京都の美術」、令和元年5月（座談会記事収録：『美術京都』第51号、公益財団法人中信美術奨励基金、令和2年3月、2-22頁）

池田祐子

[論文等]
▶「クリムトとその伴走者たち」『芸術新潮』6月号、令和元年6月25日、新潮社、40-46頁
▶「雑誌『カメラ・ワーク』における分離派的なるものと日本的なるものの交差について」京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS』Vol. 9、京都国立近代美術館、令和元年10月15日、2-17頁［査読原稿］
▶（翻訳・解説）ケルスティン・シュテーファー「Die Katagami Sammlung des Kunstgewerbemuseums Dresden – eine Spurensuche（ドレスデン工芸博物館における型紙コレクション―その足跡を探して）」京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS』Vol. 9、京都国立近代美術館、令和元年10月15日、34-49頁
▶「2018年度収蔵作品について：ロヴィス・コリント《樫の木》」『国立西洋美術館ニュース　ゼフュロス』No. 81、国立西洋美術館、令和元年11月20日、1-2頁
▶「鉄とガラスのユートピア（?）からの解放を求めて」『バウハウス100年映画祭』、トレノバ、令和元年11月23日、15-17頁
▶「忘れられたコレクター、忘れられたコレクション」『須田記念視覚の現場』第01号、一般財団法人 きょうと視覚文化振興財団、令和元年11月25日、73-75頁
▶「ユリウス・マイアー＝グレーフェと〈装飾芸術〉」『美術フォーラム21』第40号、醍醐書房、令和元年11月30日、65-73頁
▶ポスター作家略歴『日本・ポーランド国交樹立100周年記念ポーランドの映画ポスター』展図録、国立映画アーカイブ・京都国立近代美術館、令和元年12月13日、82-91頁
▶「ベルリン工芸博物館と日本―東アジア美術館設立をめぐって」立命館大学国際言語文化研究所（編）『立命館言語文化研究』31巻4号、令和2年3月31日、137-149頁

[口頭発表等]
▶講演会「世紀末ウィーンとグラフィック―総合芸術に見る民主化の試み」、主催：目黒区美美術館、会場：目黒区美術館ワークショップ室、平成31年4月20日
▶口頭発表「ベルリン工芸博物館と日本―東洋美術館設立をめぐって」、国際シンポジウム『ドイツ・モダニズムの黎明期とベルリン』、主催：科研費基盤研究（C）「ドイツ・モダニズムの黎明期―作品・理論・パトロンの美学・歴史研究」、共催：立命館大学国際言語文化研究所・研究所重点プログラム「風景・空間の表象、記憶、歴史」、会場：立命館大学創思館カンファレンスルーム、令和元年5月25日
▶講演会「世紀末ウィーンのグラフィック」、主催：NHK文化センター、会場：NHK文化センター京都教室、令和元年10月11日
▶講演会「バウハウスの女性たち」『バウハウス100年映画祭』、主催：出町座、会場：出町座、令和元年12月8日

[助成]
▶科学研究費補助金（基盤研究（A））「現代美術の保存と修復―その理念・方法・情報のネットワーク構築のために」（平成27～31年度：研究代表者・京都大学人間・環境学研究科教授 岡田温司）

小倉実子

[論文等]
▶作品解説、画家解説『円山応挙から近代京都画壇へ』展図録、求龍堂、令和元年8月

[口頭発表等]
▶「華香の人と芸術」『松花堂美術館二〇一九年春季展 ある日の都路華香』展講演会、主催：八幡市立松花堂美術館、会場：八幡市立松花堂美術館講習室、平成31年4月28日

梶岡秀一

[論文等]
▶作品解説（一部）『トルコ至宝展　チューリップの宮殿 トプカプの美』図録、日本経済新聞社、令和元年
▶「江戸で人気を博した今治出身の画家　沖冠岳」『今治史談』No.25（100周年記念特別号）、今治市教育委員会・今治史談会、令和元年7月31日、24-40頁
▶「須田国太郎のアリストテレース論」『須田記念 視覚の現場』第2号、一般財団法人きょうと視覚文化振興財団、令和2年3月30日、11-13頁

牧口千夏

[論文等]
▶「着る人たちのゲーム――登場人物紹介」、章解説、作品解説、コラム『ドレス・コード？――着る人たちのゲーム』展図録、京都服飾文化研究財団、令和元年8月、25-30頁ほか
▶「今日着ている服、あなたはどうやって選びましたか？　ドレス・コード？――着る人たちのゲーム」（アートダイアリー61）『文化庁広報誌　ぶんかる』（文化庁）、令和元年8月20日配信
https://www.bunka.go.jp/prmagazine/rensai/diary/diary_061.html（最終閲覧日：令和2年7月28日）
▶（構成・執筆）［活動報告］「オーダーメイド：それぞれの展覧会」『京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS』Vol.9、令和元年10月15日、100-136頁
▶（聞き手・文責）「わざわざ展覧会を観に行く意味をデザインする――元木大輔氏に聞く」『京都国立近代美術館ニュース〈視る〉』No. 504、令和2年2月28日、2-6頁
▶「新収蔵品紹介　ローズマリー・トロッケル《I wonder》2016年」『京都国立近代美術館ニュース〈視る〉』No. 504、令和2年2月28日、7頁

[口頭発表等]
▶「学芸員の領分」、シンポジウム『タイムライン展をふりかえる――現代美術の保存・修復・記録をめぐって』、会場：京都大学総合博物館、令和元年6月8日
▶「ドレス・コード？――着る人たちのゲーム」企画者によるレクチャー、会場：熊本市現代美術館、令和元年12月8日

[助成]
▶科学研究費補助金（基盤研究（A））「現代美術の保存と修復―その理念・方法・情報のネットワーク構築のために」（平成27年度～令和元年度：研究代表者・京都大学人間・環境学研究科教授 岡田温司）
▶科学研究費補助金（基盤研究（C））「感覚のアーキペラゴ：脱（健常）の芸術とその記録法」（平成29年度～令和元年度：研究代表者・京都市立芸術大学美術学部教授 髙橋悟）
▶科学研究費補助金（基盤研究（B））「〈ポスト身体社会〉における芸術・文化経験の皮膚感覚についての横断的研究」（平成31年度～令和3年度：研究代表者・京都工芸繊維大学工芸科学部教授 平芳幸浩）

大長智広

[論文等]
▶「河井寛次郎と川勝堅一　友情が生んだ珠玉のコレクション」、河井寛次郎年譜『川勝コレクション　鐘溪窯　陶工・河井寛次郎』展図録（『京都国立近代美術館所蔵作品集 川勝コレクション 河井寛次郎』）、光村推古書院、平成31年4月
▶「友情が生んだ大コレクション　陶工・河井寛次郎展から①」『京都新聞』令和元年5月13日付
▶「友情が生んだ大コレクション　陶工・河井寛次郎展から②」『京都新聞』令和元年5月14日付
▶「友情が生んだ大コレクション　陶工・河井寛次郎展から③」『京都新聞』令和元年5月16日付
▶「友情が生んだ大コレクション　陶工・河井寛次郎展から④」『京都新聞』令和元年5月17日付
▶「友情が生んだ大コレクション　陶工・河井寛次郎展から⑤」『京都新聞』令和元年5月20日付
▶「鯉江良二の茶碗 」『なごみ』2019年9月号、淡交社、令和元年8月28日、82-83頁
▶「YAGI KAZUO'S MR. SAMSA'S WALK: A TRULY SEMINAL JAPANESE CERAMIC ART OBJECT?」『TAASA Review』Vol. 28 Issue. 4、The Asian Arts Society of Australia Inc.、2019年 12月、12-13頁
▶「ニーノ・カルーソと日本」、解説『記憶と空間の造形 イタリア現代陶芸の巨匠　ニーノ・カルーソ』展図録、京都国立近代美術館、令和元年12月
▶「記憶と空間の造形　イタリア現代陶芸の巨匠　ニーノ・カルーソ　作品解説」『陶説』802、日本陶磁協会、令和2年2月1日、72-74頁
▶「展覧会スポットライト　記憶と空間の造形　イタリア現代陶芸の巨匠　ニーノ・カルーソ展」『炎芸術』141、阿部出版、令和2年2月1日、116-117頁
▶「ニーノ・カルーソ展に寄せて」『岐阜新聞』令和2年3月21日付

[口頭発表等]
▶記念講演会「私ハ先代菁華に教へられたー魯山人の陶磁器とその魅力ー」『没後 60 年 北大路魯山人 古典復興 現代陶芸をひらく』展、主催：碧南市藤井達吉現代美術館、会場：碧南市藤井達吉現代美術館講堂、令和元年5月18日
▶「京都国立近代美術館への招待―河井寛次郎展―」『京都新聞総合研究所提携講座　もっと知りたい関西のミュージアム』、主催：佛教大学、会場：佛教大学四条センター、令和元年5月20日
▶記念講演会II「河井寛次郎と川勝堅一 ―友情が生んだ珠玉のコレクション―」『京都国立近代美術館所蔵　川勝コレクション　鐘溪窯　陶工・河井寛次郎展』、主催：愛知県陶磁美術館、会場：愛知県陶磁美術館、令和元年9月28日

平井啓修

[論文等]
▶「円山・四条派の系譜」、章解説、作品解説、画家解説、系譜図『円山応挙から近代京都画壇へ』展図録、求龍堂、令和元年8月
▶（解説）「【特集】応挙にはじまる。〈日本画〉誕生！」『芸術新潮』、新潮社、令和元年9月25日、28-46、48-57頁
▶『毎日新聞』展覧会レビュー（夕刊）
○「モダン都市 大阪の記憶」大阪市立住まいのミュージアム　大阪くらしの今昔館（会期：2019/3/2-4/7）、2019年4月3日付
○「没後130年　河鍋暁斎　鬼才！Kyosai！」兵庫県立美術館（会期：2019/4/6-5/19）、2019年5月8日付
○「ご存知ですか？大坂画壇」八幡市立松花堂美術館（会期：2019/5/25-7/7）、2019年6月5日付
○「近代デザインの誕生」京都工芸繊維大学美術工芸資料館・付属図書館（会期：2019/6/24-8/10）、2019年7月3日付

○「横山華山」京都文化博物館（会期：2019/7/2-8/17）、2019年7月31日付
○「富本憲吉入門―彼はなぜ日本近代陶芸の巨匠なのか」奈良県立美術館（会期：2019/6/29-9/1）、2019年8月28日付
○「画家「呉春」―池田で復活（リボーン）！」逸翁美術館（会期：2019/9/14-12/8）、2019年9月25日付
○「日本の素朴絵―ゆるい、かわいい、たのしい美術―」龍谷大学龍谷ミュージアム（会期：2019/9/21-11/17）、2019年10月23日付
○「大津絵―ヨーロッパの視点から―」大津市歴史博物館（会期：2019/10/12-11/24）、2019年11月20日付
○「開館記念　福美コレクション展」福田美術館（会期：2019/10/1-2020/1/13）、2019年12月18日付
○「上方界隈、絵師済々Ⅰ」中之島香雪美術館（会期：2019/12/17-2020/3/15）、2020年1月22日付
○「京都府画学校への道」京都市学校歴史博物館（会期：2020/2/1-4/7）、2020年2月19日付

［口頭発表等］
▶'Painters of the Nanpin school in Osaka and Kyoto and their Networks' "'Creative Collaboration': Kyoto-Osaka Pictorial Arts and Salon Culture 1750-1900 Workshop"、主催：ロンドン大学SOAS、会場：ロンドン大学SOAS、平成31年4月11日
▶「長崎派の概要と南蘋派について」『一茶庵講座』、主催：一茶庵、会場：一茶庵、令和元年8月24日
▶「四条派展をやりましたvsやりますよ ―学芸員は観た！」『画家「呉春」―池田で復活（リボーン）！』展、主催：公益財団法人阪急文化財団、会場：逸翁美術館マグノリアホール、令和元年9月15日

松原龍一

［論文等］
▶「河井寛次郎と李朝白磁」『アジアン・インパクト　日本近代美術の東洋憧憬』（監修）樋田豊次郎、（編集）東京都庭園美術館、東京美術、令和元年10月

松山沙樹

［論文等］
▶「感じる・深める・気づきあう～新しい美術鑑賞のかたちを求めて～」（いきいきミュージアム～エデュケーションの視点から～047）『文化庁広報誌　ぶんかる』（文化庁）、令和元年5月17日配信https://www.bunka.go.jp/prmagazine/rensai/museum/museum_047.html（最終閲覧日：令和3年3月15日）、令和元年5月17日
▶「新しい美術鑑賞のかたちをさがして」京都国立近代美術館ニュース『視る』500号、令和元年8月23日発行、5-7頁
▶「『感覚をひらく―新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業』について」『京都国立近代美術館研究論集　CROSS SECTIONS』Vol.9、令和元年10月15日発行、80-93頁
▶（共著：松山沙樹、本橋仁、牧口千夏、吉澤あき）『感覚をひらく―新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業 平成31年度実施報告書』（平成31年度 文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業）、新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業実行委員会（実施中核館：京都国立近代美術館）、令和2年3月31日

［口頭発表等］
▶「About the Project "Open Senses- Developing New Way of Art Appreciation"- how can museums support individuals for better society?」『ICOM（国際博物館会議）京都大会2019　CECA（教育・文化活動国際委員会）』、会場：稲盛記念会館、令和元年9月2日
▶「触図活用のABC―アーティスト、視覚障害者、学芸員の協働」、みんぱく公開シンポジウム『日本におけるユニバーサル・ミュージアムの現状と課題～2020オリパラを迎える前に』、会場：国立民族学博物館第5セミナー室、令和元年11月4日

［助成］
▶平成31年度文化庁　地域と共働した博物館創造活動支援事業「感覚をひらく ―新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」（実施中核館：京都国立近代美術館）

本橋仁

［論文等］
▶「裏庭が、客を招く入口になった」『TOTO通信』63巻2号、TOTO株式会社、平成31年4月1日、18-25頁
▶「借景の柳と、坪庭のヒメシャラの協奏」『TOTO通信』63巻3号、TOTO株式会社、令和元年8月1日、12-19頁
▶「蒐集は、即効性のない薬」『建築士』69巻808号、公益社団法人日本建築士会連合会、令和2年1月1日、23-26頁

［口頭発表等］
▶「様式のない時代は可能か―世紀末ウィーンの建築から考える」、主催：目黒区美術館・大人のための美術カフェ〈特別編〉、会場：目黒区美術館、令和元年5月26日
▶「建築資料的価値を持った映像資料の発見と活用方法の研究 ―NHK教育「テレビの旅」を事例として―」、日本建築学会大会（北陸）、会場：金沢工業大学、令和元年9月6日
▶「建築がいる美術と写真」、主催：ミサワホーム、会場：徳正寺、令和元年10月20日
▶「建築史家が見る"映画の中のオフィス"」、主催：イメージフォーラム映像研究所、会場：シアター・イメージフォーラム、令和2年1月24日
▶「"みんな"の劇場って？ ―劇場へのアクセシビリティを考える」、主催：ロームシアター京都、会場：ロームシアター京都、令和2年3月8日

［助成］
▶科学研究費補助金（若手研究）「郷土資料館のたてられた時代の再検証 ―建築はどのように集められ・展示されてきたか―」（平成31年度～令和2年度：研究代表者・本橋仁）
▶一般社団法人住総研（研究・実践助成）「日本の住空間における儀式性の研究 儀式性を生み出すエクスタシー装置の歴史的変遷と地域的特色」（平成30年度～令和元年度：研究代表者・東京都市大学工学部建築学科教授 福島加津也）

独立行政法人国立美術館　京都国立近代美術館評議員（50音順）平成31／令和元年度
The Board of Trustees

現職	氏名
京都市京セラ美術館長	青木淳
京都市立芸術大学理事長・学長	赤松玉女
東京藝術大学理事	国谷裕子
国際日本文化研究センター所長	小松和彦
京都国立博物館長	佐々木丞平
美術評論家／美術史家	島田康寛
京都中央信用金庫理事長	白波瀬誠
日本画家	箱崎睦昌
京都市副市長	村上圭子
重要無形文化財保持者（木工芸）	村山明
京都工芸繊維大学長	森迫清貴
美術家	森村泰昌
京都造形芸術大学教授	八幡はるみ
京都府副知事	山内修一
京都府京都文化博物館長	山田啓二

独立行政法人国立美術館　京都国立近代美術館職員 令和2年3月31日現在
Museum Staff

現職	氏名
館長	柳原正樹
総務課長（運営管理室長）	中尾敏明
総務・事業係長	青山杏子
総務係員	高原佑太
事務補佐員	村田麻希子
〃	中川剛
〃	磯野由花
事業係主任	米田翔
事業係員	松本大河
特定研究員	土山里子
会計係長	柴田雅文
会計係主任	岡本裕子
会計係員	西岡大輝
事務補佐員	林順子
派遣職員	北林滋
学芸課長	池田祐子
主任研究員（所蔵品管理第二室長／展示調整室長）	小倉実子
主任研究員（所蔵品管理第一室長／情報資料室長）	梶岡秀一
主任研究員（教育普及室長）	牧口千夏
研究員	平井啓修
	大長智広
特定研究員	松山沙樹
	本橋仁
特任研究員	松原龍一
研究補佐員	邑林由起英
〃	渡邉くらら
〃	高見澤なごみ
〃	中野栄子
〃	福家梨紗
情報研究補佐員	片山静
事務補佐員	吉澤あき

京都国立近代美術館　活動報告
平成31／令和元年度

令和3年7月19日 印刷
令和3年7月28日 発行

発行者　福永治
発行所　京都国立近代美術館
　　京都市左京区岡崎円勝寺町
　　電話：代表　(075) 761-4111
印刷所　和光印刷株式会社
　　電話：(075) 441-5408

[非売品]
ISSN 2185-1859

MoMAK Report 2019
The National Museum of Modern Art, Kyoto

Published by The National Museum of Modern Art, Kyoto
Printed by Wako Printing Co., LTD.
© 2021 The National Museum of Modern Art, Kyoto

[not for sale]
ISSN 2185-1859

The National Museum of Modern Art, Kyoto